

# 巴 杏

三次地区医師会報

No.166

令和元年6月発行



### テッセン？クレマチス？

ちょうど家の庭にテッセン（家族曰く）が咲いていました。毎年、ほったらかしにしても咲いてきます。家族は皆、テッセンと呼んでいましたが、庭師の方がこれはクレマチスだねと言われ、一緒（洋名、和名みたいな）なのかと思っておりました。よく聞くと花の萼片が6個だとテッセンで8個はクレマチスなんだそうです。家族にもこれはクレマチスっていうのを伝えておきました。

箕岡 康明

## 目 次

|                            |                      |      |
|----------------------------|----------------------|------|
| 写 真                        | 箕岡 康明                |      |
| 巻頭言                        | 三次地区医師会 監事 星田 昌吾     | … 2  |
| 追悼 故 荒瀬秀治先生を偲んで            | 三次地区医師会 会長 鳴戸 謙嗣     | … 4  |
| 特別寄稿 市立三次中央病院だより～新病院長からご挨拶 | 市立三次中央病院 病院長 永澤 昌    | … 5  |
| <b>医師会行事</b>               |                      |      |
| 広島医学会北部支部大会及び合同カンファレンス     | 市立三次中央病院 副院長 立本 直邦   | … 8  |
| 平成30年度 多職種連携研修会報告          | 三次地区医師会 副会長 中村 英典    | … 10 |
| 医師会歓送迎会                    | 三次地区医療センター 宮中 芳浩     | … 13 |
| <b>ブロックだより</b>             |                      |      |
| 三次地区医療センターだより              | 三次地区医療センター 病院長 安信 祐治 | … 15 |
| 三次地区医師ゴルフ大会                | 津島 康司                | … 16 |
| <b>東西南北</b>                |                      |      |
| 外科医のメスに国境はない               | 著 荒瀬 秀治              | … 18 |
|                            | 編集 溝田忠人・溝田武人         |      |
| <b>FAX 伝言板</b>             |                      |      |
| 禁煙推進・受動喫煙防止活動報告            | 安藤 仁                 | … 28 |
| グランラセーレ三次について              | 安藤 仁                 | … 35 |
| <b>会員紹介</b>                |                      |      |
| 市立三次中央病院 消化器内科             | 益田 和彦                | … 39 |
|                            | 松原 直矢                | … 39 |
| 市立三次中央病院 循環器内科             | 広川 達也                | … 40 |
| 市立三次中央病院 呼吸器内科             | 江草 弘基                | … 40 |
| 市立三次中央病院 糖尿病・代謝内分泌内科       | 姫野菜津美                | … 41 |
|                            | 児玉 竜一                | … 41 |
| 市立三次中央病院 腎臓内科              | 弓場 義雄                | … 42 |
|                            | 安達 悠歩                | … 42 |
| 市立三次中央病院 小児科               | 出雲 大幹                | … 43 |
|                            | 山岡 尚平                | … 43 |
| 市立三次中央病院 外科                | 近藤 賢史                | … 44 |
| 市立三次中央病院 整形外科              | 吉岡 紘輝                | … 44 |
|                            | 上妻 陽介                | … 45 |
| 市立三次中央病院 産婦人科              | 張本 姿                 | … 45 |
| 市立三次中央病院 皮膚科               | 野本佳葉子                | … 46 |
| 市立三次中央病院 泌尿器科              | 向井 桜子                | … 46 |
| 市立三次中央病院 耳鼻咽喉科             | 服部 貴好                | … 47 |
| 市立三次中央病院 眼科                | 津村 諒                 | … 47 |
| 市立三次中央病院 放射線診断科            | 岡田 康平                | … 48 |
| 市立三次中央病院 麻酔科               | 笹部 祥子                | … 48 |
| 老健あさざり                     | 山口 拓朗                | … 49 |
| 市立三次中央病院 歯科口腔外科            | 津島 康司                | … 49 |
| 医師紹介                       |                      |      |
| 会員異動                       | 事務局                  | … 50 |
| 医師会事業所現況報告                 | 事務局                  | … 53 |
| 医師会日誌                      | 事務局                  | … 54 |
| 編集後記                       | 加美川 誠                | … 56 |
| 写 真                        | 小根森 元                |      |



一般社団法人 三次地区医師会

監事 星 田 昌 吾

桜咲くうらかな春があつという間に終わり、もうすぐそこに夏の気配を感じる季節になりました。5月末には北海道で気温39度を記録し、三次も例年になく暑い陽気が続きました。

今年のゴールデンウィークは10連休となりました。公共交通機関などの社会インフラの混乱が懸念されましたが、特に大きなトラブルはなかったようです。三次地区でも、連休中に診療を行われた先生方も多く、大きなトラブルはなく一安心です。

一方で、われらがカープは、開幕直後は投打がかみ合わず、攻めては凡打に拙攻、守っても失投に与四球、そしてエラー…と、大きなトラブル連発で一時は最下位に転落し、リーグ4連覇はどうなることかと心配しました。ところが鯉の季節を迎えるころには投打ががっちりかみ合って連勝を伸ばし、瞬く間に巨人をかわして首位に立ちました。開幕一か月はまるでジェットコースターのように、強いカープが戻ってきてほっと一安心です。投手では床田やアドゥワ、野手では西川や野間、磯村といった若手の活躍がめざましく、3番に座ったバティスタや鈴木誠也といった主力が調子を上げてきたことと、中継

ぎ陣の好調が連勝の要因だと思います。一方で、松山、安部、中崎といった連覇を支えてきたベテランの調子が上がって来ず、特に田中の打撃不振が守備にも響いているようで、不調が続くようなら何らかの対処が必要なのではないかと思ってしまうます。チームを支えた丸が移籍して、改めて生き馬の目を抜くプロの世界の厳しさを感じました。連覇をしたチームでも新陳代謝によって新しい力を育てていくことも必要なことかもしれません。

さて、任期満了に伴う三次市長選挙が行われました。節目の選挙は現職と新人の一騎打ちとなり、結果は僅差で新人が現職を破り初当選となり、新しい三次になりました。医療介護に関する問題は行政の協力が無ければ解決できません。新市長をはじめ三次市と医師会はこれからも二人三脚で地域医療を支えていかなければならないと思います。

そんな中で、この1年で谷岡慶英先生、荒瀬秀賢先生、荒瀬秀治先生がお亡くなりになりました。3人とも私より若い先生です。世の常とは言いますが、非常に残念で悔しく思います。私たちは3人の先生の遺志を継いでより一層地域医療に取り組んでいかなければなりません。

4月に新元号が発表され、5月には新天皇の即位式とともに「令和」の時代が始まりました。

「于時、初春令月、氣淑風和、梅披鏡前之粉、蘭薰珮後之香。」

(時に、初春の<sup>れいげつ</sup>令月にして、<sup>きよ</sup>氣淑く <sup>かぜやわら</sup>風和ぎ、  
梅は<sup>きょうぜん</sup>鏡前の<sup>こ</sup>粉を<sup>ひら</sup>披き、蘭は<sup>はいご</sup>珮後の<sup>こう</sup>香を<sup>かお</sup>薫らす。)

という、万葉集からの典拠だそうです。「時は初春の<sup>よ</sup>令い月であり、空気は美しく、風は和かで、梅は鏡の前の美人が白粉で装うように花咲き、蘭は身を飾る衣に纏まとう香のように薫らせる。」という意味で、この場合の『令』は“物事のつやがあるように美しい”という意味だそうです。

地域医療をはじめ、我々に課された課題は山積みですが、残された者が協力し合い物事がうまくかみ合っていけば、より<sup>よ</sup>令い世界になるであろうと信じています。令和の時代も、医師会へのご協力を宜しくお願い申し上げます。





# 故 荒瀬秀治先生を 偲んで

一般社団法人 三次地区医師会

会長 鳴 戸 謙 嗣

謹んでここに、荒瀬秀治先生のご霊前に対し、三次地区医師会を代表し、心よりお別れの言葉を捧げます。

先生が二月六日にご逝去されたとの訃報に、私たちは大変な驚きと衝撃を受けました。体調を崩され、何度か入院をされておられましたが、闘病叶わずとの思いに残念でなりません。

享年七十一歳の偉大なる生涯を閉じられたことに私たち会員は深い悲しみに包まれております。

在りし日の先生のお姿が眼前に去来し、万感胸に迫り、人の世の無常を殊更に感じさせられる思いであります。

先生は、昭和五十一年に東京医科大学をご卒業され、国立療養所宇都宮病院、戸田中央総合病院、奈良県の山の辺病院などで外科医・麻酔科医としての研鑽を積まれました。

昭和五十五年から一年間は、大学からの特別出張という形で、実家の荒瀬外科病院で御父上の秀隆先生とご一緒に診察をされました。その後、へき地医療への思いから、鹿児島県始良郡の隼人温泉病院に勤務されていたところ、平成四年四月、当時の君田村長であった藤原清隆氏と地域住民の皆様のたつてのお願いにより、現在の三次市国民健康保険君田診療所に常勤医師

として赴任されました。

医師不足が深刻な君田地区に、常勤医師として三次出身の荒瀬秀治先生が着任されたことに、地域住民の皆様は大変喜ばれたと伺っております。以来、二十七年の永きに渡り、先生は医師として昼夜を分かたず、地域の皆様の健康と安心安全な生活を守ってこられました。そして、気さくな性格と深い思いやりで、地域住民の皆様の信頼も大変厚きお人柄でございました。

私たちは先生の遺志を継承し、これからの地域医療を守っていくために、より一層努力していくことを誓い、改めてご霊前に心より感謝申し上げます。

終わりに、ご遺族の皆様にはくれぐれもご自愛されることをお願い申し上げ、先生のご生前のご遺徳をしのび、限りない哀悼の誠を捧げまして、お別れの言葉といたします。

荒瀬秀治先生、本当にありがとうございました。安らかに眠りください。

合掌

平成三十一年二月八日



## 特別寄稿

### 市立三次中央病院だより ～新病院長からご挨拶



市立三次中央病院  
病院長

永 澤

あきら  
昌

平成31(2019)年4月1日に病院長に就任し、初めて“便り”をお届けします。

緑萌ゆる候、市立三次中央病院の様子を今年も例年通りにお届けします。

令和元年5月の10連休は、病院経営に影響を与えるものでした。その後、入院患者数が240前後/350床(病床稼働率70%程度)を推移しており、厳しいスタートとなりました。これからの当院の頑張り地域の皆様のご協力が必要です。

4月より三次市長さんが変わりました。事業計画などは今からの協議が必要ですので、この便りでお届けできる話題もずいぶん制限されてしまいますが、ご容赦ください。

#### 病院人事について

医師は、放射線治療医の榎本和樹先生が、諸事情から中国中央病院に異動されました。補充人事は常勤医師の配置はなく、当面は金曜日に大学からの医師と放射線物理士の派遣をいただき対応することとなりました。現場の医師の皆さんにはご不便をおかけすることとなり、がんの救急・放射線治療では広島市立安佐市民病院への転送となります。

事務部は、病院企画課長が異動となり、企

画係長が昇任しました。事務部長、医事課長は留任で大きな異動がなかったので、一安心です。

今年度の採用は医師21名(末表参照)、助産師3名、看護師15名(そのうち、9名が三次看護専門学校卒)、検査技師1名です。

医師の異動は、今年も人数が多いことありますが、平成28-29年卒の後期研修医(専攻医)が13名と多いのが特徴的です。専門医を取得するための臨床経験を求めて来る医師が増えてきていることになり、当院の役割として専門医育成の教育環境のさらなる充実が必要となります。卒後5年経っている医師には専門医取得を、卒後7年目経っている医師には臨床研修指導医の資格取得が要求されるものです。資格のないベテラン医師も数名いますが、当院の役割からは早急の資格取得が求められていると認識します。今後ふるさと卒業生の増加と備北地域への配置増がありますので、この流れに拍車がかかる見通しです。

昨年度途中からは、血液内科とリウマチ膠原病科を標榜することができました。広島大学よりの非常勤医師派遣を受けて、血液内科は隔週水曜日に、リウマチ膠原病科は火曜日に、週一回の外来診療を行っています。今後、

ニーズの高まりがあれば常勤医師配置を行えることになろうと考えますので、よろしくご紹介をお願いします。診療は、完全予約制ですので、地域連携室ないし地域連携室長の立本副院長に事前のご連絡をお願いします。

## 病院の経営状況について

平成30年度の決算はまだ未確定のため、今回での詳細な報告はできませんが、例年なみの黒字になりそうです。しかし、令和元年度はきびしいことが予想されています。

秋の消費税アップ（8%から10%へのアップ）により、支出の増加は防ぎようがありません。昨年度と同じ稼働率で、なんとかトントンの収支が見込まれています。が、ゴールデンウィーク10連休からの稼働率低下が続いていますので、前途多難です。

医療・看護必要度の新基準に対応して在院日数の短縮傾向が続いていましたが、現状は15日弱の在院日数で落ち着いています。

なんといっても、平均稼働率が80%を下回る月が多くなっており病院経営は厳しい状況になってきています。令和元年は、エレガントなハーモニーを醸し出せる余裕が作れていないのが実状です。

外科系の一部にて、多くの三次市民のかたが市外の病院での対応となっている状況（患者さんの市外流出）があります。要因は、当院の受入体制と患者さん・地域医療機関のニーズとのアンマッチが主なものです。今後、患者さんと医療機関の双方によるマッチング作業を綿密に行って、できるだけ三次市で医療が完結できるような方策を練って行きたいと考えています。

今回は“巴杏”の原稿を書いていますので、三次地区医師会の皆様へのお願いです。急がない手術・処置も極力当院で対応したいと思っていますので、患者さんのご意向をぜひ

お聞きしてください。市外の病院で対応の早い所もあることと思いますが、患者さんがすし待ってでも当院での手術・処置を希望することもあるはずです。どこにご紹介されるのかは診療医師で決定するのではなく、患者さんに選択してもらうことを期待しています。当院の患者さんについても同様です。どこでいつかかりたいのかの最終決定は患者さんの権利であることも踏まえて、診療方針を立てていき、できることは市立三次中央病院と三次市内で行えるように方向性を持っていければと考えています。そのための、当院の医療の質・サービスの質の向上を継続して行う努力を続けていきたい所存です。医療の質・サービスの質の向上については、次の機会にでも詳しく述べさせていただければありがたいと思います。

## 病院の目標と今後について

福岡誠志（さとし）新市長さんとも密接な連携をとりながら、対応策を立て実践していくための準備中です。今回、考えていることのすべてを述べることはできませんが、3つのことをお話できます。

### 1)災害に強い病院作りを行う。

昨年、BCPマニュアルを策定したところです。しかし、内容的にはまだ不十分と考えています。

秋（11月3日）には、県の事業である「広域災害訓練」が当院にてあります。

災害時に行わなくてはいけないことは、レベル別にきちっとマニュアル化すること、すべての職員にアクションカードを作成すること、実施できるためのインフラ整備にとりかかること、など課題山積ですが継続して取り組んでいくことが大切です。

### 2)市民に開かれた病院を目指す。

市民に医療をより身近に感じていただく、



また医療を受容するのではなく自身から積極的に医療に参加していただく意識作りを行いたいと考えています。

夏(8月24日)には、高校生対象の医療体験セミナーを開催します。詳細が決まりましたら、ご報告します。

来年(2020年)中には、病院祭りを行いたいと思います。

### 3)情報発信できる病院にする。

三次市そして市立三次中央病院で行っていること、頑張っていること地区外さらには全国に発信していきたいと思っています。「三次を元気にする」新市長方針もありますが、そのために三次のよさを積極的に発信することが必要であり、そのためのIT活用も進めてい

きたいものです。病院からの情報発信(学会発表やホームページなど)により、「いろいろな人が三次に寄ってくる三次」となることを期待しています。この方針は三次市全体で取り組まなくてははいけません。

そのほかにも、救急体制の再整備など、懸案事項は山積です。具体的な内容になってきましたら、少しずつでも情報共有を行わせていただき、手順を踏んだうえでご協力をお願いしたい所存ですので、よろしくお祈りします。

最後になりましたが、三次地区医師会の会員の皆様のご健勝を心からお祈りします。

### 医師の人事異動(平成31年4月1日)

| 科           | 前任者   | 異動後勤務先       | 卒年  | 採用者       | 異動前勤務先         | 卒年  |
|-------------|-------|--------------|-----|-----------|----------------|-----|
| 病 院 長       | 中西 敏夫 | 退職(→顧問に就任)   | S47 |           |                |     |
| 消 化 器 内 科   | 趙 成大  | 中電病院         | H10 | 益田 和彦     | 広島大学病院         | H21 |
| 消 化 器 内 科   |       |              |     | 松原 直矢     | 県立広島病院         | H29 |
| 循 環 器 内 科   | 小島 浩史 | 安佐市民病院       | H27 | ひろかわ 達也   | 広島大学病院         | H29 |
| 呼 吸 器 内 科   | 中増 昭久 | 水入医院         | H20 | えぐさ 弘基    | 広島大学病院         | H29 |
| 腎 臓 内 科     | 原 大輔  | 原田病院         | H26 | あづま 義雄    | 呉共済病院          | H26 |
| 腎 臓 内 科     | 森本 啓介 | 広島大学病院       | H26 | あだち 悠歩    | 広島赤十字・原爆病院     | H29 |
| 糖尿病・代謝内分泌内科 | 大江 健  | おおえクリニック(開業) | H18 | ひめの なつみ   | 安佐市民病院         | H27 |
| 糖尿病・代謝内分泌内科 | 岡田 晃  | 東広島医療センター    | H27 | こだま 竜一    | JA広島総合病院       | H29 |
| 放 射 線 治 療 科 | 榎本 和樹 | 中国中央病院       | S61 |           |                |     |
| 放 射 線 診 断 科 |       |              |     | おかだ 康平    | 広島大学病院         | H29 |
| 泌 尿 器 科     |       |              |     | むかい 桜子    | 広島大学病院         | H28 |
| 外 科         | 原田 拓光 | JA広島総合病院     | H25 | こんどう 賢史   | 広島西医療センター      | H29 |
| 整 形 外 科     | 住井 淳一 | 広島大学病院       | H24 | よしおか 絃輝   | 県立広島病院         | H27 |
| 整 形 外 科     | 猫本 明紀 | 広島大学病院       | H25 | こうづま 陽介   | 興生総合病院         | H29 |
| 耳 鼻 咽 喉 科   |       |              |     | はつなり 貴好   | 広島大学病院         | H28 |
| 小 児 科       | 岡島枝里子 | 広島市こども療育センター | H20 |           |                |     |
| 小 児 科       | 白石 泰尚 | 広島赤十字・原爆病院   | H22 | やまおか 尚平   | 県立広島病院         | H27 |
| 小 児 科       | 江藤 昌平 | 広島大学病院       | H24 | いづみ 大幹    | 舟入市民病院         | H25 |
| 産 婦 人 科     | 岡本 啓  | 岡本産婦人科医院     | H20 | はしimoto 姿 | 広島大学病院(県立広島病院) | H29 |
| 麻 酔 科       | 石橋 優和 | JA広島総合病院     | H12 | ささべ 祥子    | 広島大学病院         | H28 |
| 麻 酔 科       | 永島 健太 | 福山市民病院       | H26 |           |                |     |
| 皮 膚 科       |       |              |     | のちと かよこ   | JA尾道総合病院       | H23 |
| 眼 科         | 宮田真弓子 | 安佐市民病院       | H27 | つむら 諒     | 広島大学病院         | H28 |
| 歯 科 口 腔 外 科 | 木村 直大 | 広島大学病院       | H17 | つしま 康司    | 広島大学病院         | H24 |

# 第69回広島医学会北部支部大会及び 平成30年度三次地区医師会・ 庄原市医師会・安芸高田市医師会 市立三次中央病院・庄原赤十字病院 合同カンファレンス&懇親会の報告

市立三次中央病院 副院長

地域医療連携室室長



立 本 直 邦

平成31年3月8日(金)、グランラセーレ三次(平安閣)において、『第69回広島医学会北部支部大会及び平成30年度三次地区医師会・庄原市医師会・安芸高田市医師会・市立三次中央病院・庄原赤十字病院 合同カンファレンス』として「講演会」、引き続いて「懇親会」が開催されました。



三次地区医師会長 鳴戸先生 開会挨拶

当日は、三次地区医師会会長・鳴戸謙嗣先生の開会挨拶に続き、三次市市長 増田和俊様を来賓にお迎えし、開会来賓挨拶をいただきました。講演会に111名・懇親会に77名と多数のご参加をいただき、盛会となりました。まずは皆さまに心からお礼申し上げます。

講演会は、庄原赤十字病院病院長・中島浩一郎先生に座長をお願いし、平成31年3月31日付けで市立三次中央病院を退職予定の中西敏夫先生に『備北メディカルネットワークと地域医療構想』と題したご講演をいただきました。病院長就任後の10年3ヶ月に取り組まれた多くの、枚挙にいとまのない業績、また事業を振り返っていただきながら、これからの備北地域医療の展望について、備北メディカルネットワークとの関わりを交えてお話し



増田市長 来賓挨拶



中西先生のご講演

いただきました。中西敏夫先生には引き続き備北地域医療に携わって指導していただけるとのことで、心強い限りです。ますますのご健康を祈念いたすばかりです。庄原市医師会会長・林 充先生による閉会挨拶で締めとなりました。

ひき続いて隣室に場所を移し、「懇親会」が開催されました。まず、長年備北地域医療に貢献されて参りましたが、残念ながらこの1年間にご他界されました、栗本清次先生、谷岡慶英先生、荒瀬秀賢先生、荒瀬秀治先生に対して黙祷いたしました。続いて、安芸高田市医師会会長・徳永 彰先生の開会挨拶、西城市民病院病院長の郷力和明先生の乾杯のご発声で会がスタートいたしました。

この会の設立当時の基本姿勢=顔と顔のわかった間での連携が重要=に則り、まず、ご出席いただいた全ての先生がた、お一人ず

つから今回は『趣味』をテーマに一言ずつ、自己紹介を兼ねてお言葉をいただきました。続いて、各病院側から、前回の合同カンファレンス以降に赴任した新しい顔ぶれの医師の自己紹介・アピール、さらに3月31日付けで、退職・転勤となる医師から報告・お礼の挨拶をさせていただきました。終始和やかな、うち解けた賑やかな懇親会となりました。最後に、三次地区医師会副会長・大倉美知男先生の挨拶でお開きとなりました。

医師会=かかりつけ医の先生方との連携を密に取ることが、今後も地域の皆さまの健康を守ることに多大な役割を果たしていることに変わりはないと思います。引き続きご意見ご要望等はいつでもお気軽にお申し付けいただければ幸いです。紙面を借りまして改めてよろしくお願いいたします。

最後に、今回のイベントの開催にたいへんご尽力いただきました、三次地区医師会・庄原市医師会・安芸高田市医師会・市立三次中央病院の事務部門の皆様に深謝申し上げます。来年度以降もますますこの会が盛会になりますよう、一人でも多くの皆様のご臨席をお願いするとともに、我々も努力して参ることをお約束し、報告を終わります。

(平成31年3月25日 記載)



庄原市医師会会長 林先生 閉会挨拶



懇親会

## 平成30年度 多職種連携研修会報告 ～地域包括ケアシステムの構築を考える 医療・福祉のケアの質を向上するために どうするか～



三次地区医師会

副会長 中村英典

三次・庄原地区多職種連携会議（代表：広島県看護協会三次・庄原支部 野田宏美氏）は、当地域の保健・医療・福祉の分野の従事者が「顔の見える関係」を構築し、高齢者の健康や生活を支援し、在宅療養を推進するために平成22年に広島県看護協会三次・庄原支部が中心となって設立されました。三次市・庄原市・備北地域保健対策協議会の後援のもと、16の関係機関・関係団体により構成され、今年度10年目を迎えました。三次・庄原という行政区域を越えて、それぞれの専門的な知識を持ち寄り、多職種間で情報を共有し、連携上の課題抽出や対応策を協議することにより現場での実績につなげています。

三次地区医師会は平成24年度より参加し、年4回の定例会議と年2回の研修会開催に積極的に関わっています。また、平成28年度からは事務局として会議の準備や広報を担当しています。

多職種連携会議には、岡崎哲和先生のご尽力で発足当時から神戸学院大学総合リハビリテーション学部の備酒（びしゅ）伸彦教授に研修会の講師としてご協力いただいています。昨年度の研修会が終了した時点で、平成30年度は高知県のナチュラルハートフルケア

ネットワークの下元佳子先生を呼ぼうと備酒先生から提案がありました。

下元先生は、高知県を中心に、ケアに関わる人たちの質の向上を図り、「どんな状態でも（病気や障害の有無を問わず）どこで暮らしていても（病院や施設、在宅を問わず）人としてあたり前の生活が保障される地域づくり」を目的に全国を飛び回って活動しております。

平成30年度の三次での研修会は、平成31年2月23日（土）みよしまちづくりセンターペペらホールで、15職種76名の参加（医師は5名）を得て開催されました。

下元先生は基調講演で、「少子高齢化社会に向かう日本とその先端に行く『高知家』」と題してお話しされました。「高知家」とは2013年に高知県知事が発表した「高知県はひとつの大家族やき」というキャッチフレーズの高知県振興キャンペーンの名称です。

先生は、理学療法士として就職された慢性期病院でベッド上で生活する拘縮だらけの寝たきり高齢者みて、拘縮の強い人をどのような姿勢でケアすればいいか、拘縮をつくらないようにするにはどうすればよいか、テクニックで治すことにしがみつかず、福祉用具



を使用して可能性を引き出すのにはどうすればよいかを考え、可能性を広げることができる福祉用具を知り、そしてその情報をひろげるために2002年「ふくし機器展」を立ち上げました。自分らしく暮らしたいという当たり前の思いをサポートし、かつニーズを解決することを目的としています。協力メーカーの賛同も得られ、今では144社が協力し、多数の学生も参加し2000名以上の方が来場される大きなイベントになっています。学生・スタッフらに対し専門性と組織性の両面での人材育成にも役立ち、地域との繋がりから地域ケアの質の向上にも寄与しているそうです。

機器展をはじめ様々な取り組みを行っているうちに、ケアに関わるために最低限必要な知識を習得し、ボトムアップができる仕組みづくり・人材育成ができる仕組みづくりの必要性に気づき、2013年高知家統一基本ケアセミナーという研修活動を企画されました。これは、「ケアする側もされる側においても、今だけでなく将来の健康的な生活を保障できるケア」「自立を促進し二次障害を発生させないケア」を実践できる地域にするための人材育成のための研修活動です。ファーストステップとして、県下全域で15項目（表1）について同じ内容の研修を継続開催するものです。例えば「地域を知る」という単元では、「高知県の人口は？」ということから始まります。自分たちの住む地域のこと、高知県のことなど具体的な数字を確認しながら意見交換をするのだそうです。私たちも改めて問われ

ると、自分たちの住む地域のことがよくわかっていません。「三次の人口は？」「広島県の人口は？」という質問にすぐに答えられるでしょうか？高齢化率は？人口に対して医師の数は全国平均より上か下か？こういった基本的な知識を蓄え、ケアに役立てていくものです。

また、高知県では、県をあげて「ノーリフティングケア」に取り組んでいます。持ち上げない、抱え上げない、引きずらない「ノーリフティングケア」は高齢者や障害を持つ人を車椅子やベッドから移動させる際にリフトなどの福祉用具を適切に用いることで、介護する側される側双方の負担が軽減する優しく安全なケアで、介護職員の腰痛予防や人材確保にも一役買っています。

抱え上げや引きずり等の力任せの動作介助は介護者には腰痛を発生させ、対象者には自立を阻み褥瘡や拘縮などの物理的な二次障害

（表1）高知家統一基本ケアセミナーファーストステップ

|     |                                                                     |                                                                                                                               |
|-----|---------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 対象  | 医療・福祉職すべてが対象 将来的には新任職員研修とする                                         |                                                                                                                               |
|     | 指導者または指導者として養成する人：15項目受講後それぞれの項目のセカンドステップを受講、その後、指導者養成講座を受講していただきたい |                                                                                                                               |
| 受講料 | 1項目90分 受講料各500円                                                     |                                                                                                                               |
| 内容  | 地域を知る                                                               | 日本の現状、高知県の現状を理解し、医療や福祉の課題と地域づくりとなる役割を考える                                                                                      |
|     | 権利擁護<br>～身体拘束・虐待防止～                                                 | 尊厳とは何か、人として当たり前に暮らすとはどういうことなのかを考える。虐待、差別とは何か。法を知り自分たちのあり方考える                                                                  |
|     | 組織とチーム                                                              | 対象者に良い結果を出すことができるチームを作るために、一人一人のあり方考える 目的達成思考を考える                                                                             |
|     | 介護予防                                                                | 地域包括ケアとは何か、それぞれの組織が、「地域づくり」で成果を出すために、どのような役割を担い、その中で一人一人の役割は何か、地域のあるべき姿を考える                                                   |
|     | 防災                                                                  | 災害への備えは？被害想定は？職場や家はどうなる？現在の取り組みの状況を知り、医療福祉職の使命と役割を知る                                                                          |
|     | 姿勢と動き①～④<br>～ポジショニング<br>シーティング<br>ノーリフト⑥～                           | 日常生活の行為の基礎を作る姿勢と動きの基本：どのようなケアをしてはいけないのか、どのように行うべきなのかを学ぶ。ポジショニング・シーティングと腰痛予防、二次障害予防のための「抱え上げない・持ち上げない・引きずらない＝ノーリフティングケア」の基礎を知る |
|     | 排泄                                                                  | 排泄ケアとは？老病物を身体からしっかり出せるサポートが行え、健康が守れるために、何をすればいけないのか、どのような「排泄ケア」を目標とするのかを学ぶ                                                    |
|     | 健康管理                                                                | 医療・福祉職の誰もが対象者の健康を守るために日常のケアにおいて、治療効果を上げるために、健康につながる暮らし方の中で、何をすればいけないのか、何をすべきなのかを学ぶ                                            |
|     | 食                                                                   | 健康を守り、いつまでも「食」を楽しむために、「栄養」・「姿勢」・「食事介助」・「口腔ケア」など考えるべきポイントを学ぶ                                                                   |
|     | スキンケア<br>褥瘡予防                                                       | 身体の中の最大の臓器である皮膚。単に清潔マナーのためだけでなく、ケアの基本である健康を守るためのスキンケアと褥瘡予防を学ぶ                                                                 |
|     | 見え・聞こえ・伝え                                                           | コミュニケーションの原則、マナーや対人援助から、見えや聞こえ、伝えなどの障害とその対応を知る                                                                                |
|     | 認知症                                                                 | 「認知症の方の心」を理解し、どのように関わりを持つべきかを考える                                                                                              |

出典：一般社団法人ナチュラルハートフルケアネットワークのホームページより



やコミュニケーション力低下・精神的不安なども引き起こします。二次障害を引き起こさない実現可能なケアのプランニングには福祉用具の知識・技術の習得が必須で、更に腰痛調査など職員の健康状態の把握・対策などのマネジメントが大切であると強調されました。ノーリフティングフォーラムやセミナーなどを各地で開催し、地域で普及・仕組みづくりを行っておられます。

下元先生を中心とした高知県の福祉機器展・統一基本ケアセミナー・ノーリフトケアの取り組みは、即ち、少子高齢化が進む中で、医療福祉のケアの質の向上と人材育成への取り組みであり、聴講した我々にとって刺激的・啓蒙的でした。三次・庄原でも取り組むべき課題であり、研修会終了後のアンケートでも当地域でこのような研修をしたいという感想がたくさんみられました。本年4月の定例会議の際、岡崎先生より備北地域で統一基本ケアセミナーを企画したい旨の提案がありました。

下元先生の基調講演に次いで、備酒先生による北欧のケアの現状のお話の後、「ケア人材に求められる力」という題で、ルーブリックを用いたテーブルワークを行いました。一

人ひとりがケア提供者としてどのようなレベルにあるのかを客観的に評価し、現在のレベルを知ることができました。各グループで参加者同士の意見交換が行われ、多職種連携に繋がるコミュニケーションができました。

最後に、前日の三次市と三次地区医師会が共催で行った在宅医療介護連携推進事業の研修会で講演いただいた政策研究大学院大学の小野太一先生の御講評で研修会の幕を閉じました。

今回の研修会をきっかけに、前述したように、三次地区で統一基本ケアセミナーを開催しようと現在各職種の方に呼びかけ準備を始めているところです。下元先生・備酒先生には引き続き当地域でご支援いただけたとことです。医師会の先生方にも講師等でご協力いただくことがあろうかと存じますが、その節はよろしくお願いいたします。



下元先生



備酒先生



## 三次地区医師会事業所歓送迎会



三次地区医療センター 宮 中 芳 浩

平成31年4月18日、グランラセーレ三次平安閣にて三次地区医師会事業所歓送迎会が行われました。医師会長鳴戸先生をはじめまして、医師会諸先生方、あさぎり、臨床検査センター、スクラム、居宅介護支援事業所、その他各施設のスタッフの皆様方のご出席により、盛大な歓送迎会となりました。会は鳴戸先生の開会挨拶で始まりまして、市立三次中央病院顧問 中西先生のご挨拶に続きまして、今年度から医療センター、あさぎり、スクラム、居宅介護支援事業所に勤務される新人スタッフの紹介、永年勤続者の表彰、恒例の新人によります出し物など、盛り上がりをみせ

ておりました。また安信病院長より本日ご出席の開業医先生・市立三次中央病院の先生のご紹介、医療センター・医局の紹介がありました。最後のご挨拶は、中村先生の閉会宣言にてお開きとなりました。今年度もさまざまなところでご迷惑をおかけすることと思いますが、同じ地域の医療を携わるものとして、温かく見守っていただければと思います。ただし、医療というものの性質上、時に厳しいご指導も必要と思われますので、その際はよろしくお願い申し上げます。以上にて、非常に拙劣ではありますが、三次地区医師会歓送迎会についての報告とさせていただきます。



鳴戸会長の開会挨拶



大倉副会長 乾杯のご発声



中村副会長の閉会挨拶



永年勤続者表彰



有志によるダンスパフォーマンス

# 三次地区 医療センターだより



三次地区医療センター  
病院長 安 信 祐 治

会員の先生方におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。当センターは地域に根差した医療を実践して参りましたが、平成10年に栗屋から当地に新築移転して早20年の歳月が流れ、昭和57年に設立されてから35年が経過致しました。これも会員の先生方のお力添えの賜物と感謝しております。この場をお借りして、改めてお礼を述べたいと思います。

今年度は、原点復帰、初心に返り、当センターの理念に掲げている「全人的医療」について改めて考え、これを実践して参りたいと思っております。患者様の高齢化に伴い、重篤な重複障害を合併された方、がん末期の方、脳血管合併症があり維持透析を受けられている方も多くなり、治療選択に悩むケースも年々増加しております。こういった状況を背景に、昨年的一般病棟での死亡退院は7%、療養病棟では40%を超えておりました。一方、医師会においてもACP(人生会議)の啓蒙・普及・実践への取り組みも課題に挙がっており、全人的医療を考えて行く上でACPや緩和についても思いをはせながら実践していきたいと思っております。

また、診療報酬改定においては、ますます

医療機関の機能分化・強化と連携、在宅医療の充実が課題となっておりまいます。当センターの強みを活かした在宅医療への貢献を念頭に、今年度も新たな事業に取り組んで参りたいと思います。

令和元年度医師の異動を報告致します。消化器では飯尾澄夫(H24)先生が広島大学病院へ帰られ、代わりに西村朋之(H24)が来られました。リハビリでは片平健人(H28)先生が広島大学病院へ帰られ、代わりに篠原隼(H29)先生が来られました。どちらの先生も若く、一生懸命頑張ってもらえると期待しております。また、市立三次中央病院から派遣頂いている、吾郷里華先生、杉廣貴史先生には引き続きお世話になり、田中幸一先生にも当直業務(三次市休日夜間急患センター兼務)でお世話になっております。退職された先生方にはお礼を申し上げるとともに、今後のご活躍を期待しております。

最後になりましたが、職員一同これからも微力ながら地域医療に貢献できるように頑張参りますので、今後とも引き続きのご指導・ご鞭撻を宜しくお願い致します。



## 第32回 三次地区医師 ゴルフ大会報告



市立三次中央病院

歯科 津 島 康 司

市立三次中央病院歯科口腔外科の津島です。この2019年4月から様々な思いを胸に、広島市から三次市に移り住み、歯科で勤務させていただいております。三次生活も2週間が経つ4月15日に立本副院長にお誘い頂き、伝統ある第32回三次地区医師ゴルフ大会（庄原カントリークラブ）に歯科医師として初参加させていただきました。天候は前半4ホールが雨で、その後は徐々に雨も上がり少し気温は低かったですが中盤以降良い天候となりました。今回の大会に参加するにあたり、初めてお逢いさせていただく先生方とのゴルフであったため緊張の中スタートしました。私のパーティは永澤病院長、前回優勝 山田先生、大谷先生とのグループでした。また、最年少であったためにカッコつけようと変な力み満載でスタートしました。雨の中でしたがコースはとても整理されており、また同じパーティの先生方にコース攻略法を教えてくださいながらゴルフをととても楽しめました。ドラ

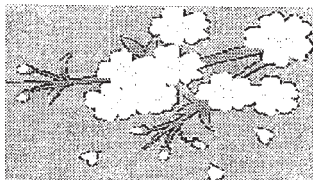
イバーは終始スライスしていたために、教えていただいた攻略を全く活かすことができず、ゴルフの内容に関しては、あまり触れないことにしておきます。スポーツや運動は、終わり良ければすべて良し。ということで終始本当に楽しくゴルフをさせていただき感謝しかありません。

次回の開催は11月17日の予定ですので、是非次回も参加させていただけるように、また三次生活も楽しみながら市立三次中央病院で精進していきたいと考えております。次回の目標はドライバーを真っ直ぐ飛ばし、少しでも上位に入れるように頑張りたいと思いますのでよろしくお願い致します。





平成31年4月14日



HDCP上限(男性):36.0      HDCP上限(女性):36.0

隠しホール

|     |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
|     |   | * |   | * | * | * | * | * |   |    | * | * | * |   |   | * |   | * | * |
| OUT | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | IN | ⑩ | ⑪ | ⑫ | ⑬ | ⑭ | ⑮ | ⑯ | ⑰ | ⑱ |

[illegible]

幹事 山田博隆  
立本直邦

– 17 –



# 外科医のメスに国境はない ～荒瀬秀俊 伝～

荒瀬秀治 著  
溝田忠人・溝田武人 編集



## はじめに

広島県の県北三次市三次町に江戸時代から11代続いている医師荒瀬家がある。8代の荒瀬一基までは現在の三次市下川立町で開業していた。江戸時代末期には藝州三治郡川立村という地名であった。幕末の先祖、7代荒瀬元安(1835-1899、享年64歳)は九州日田にあった広瀬淡窓(1782-1856、享年74歳)の咸宜園に入門した記録が残っている<sup>1)</sup>。

私の兄、荒瀬秀賢は11代を継いで73歳で生涯を閉じた。私は祖父・9代荒瀬秀俊<sup>2)</sup>の晩年を共に荒瀬病院で過した。また、祖父の生きざまや人となりに関して、その医療人生を通して最も近くにいた兄玉ハズエ婦長(以下、兄玉婦長と記す。)から、折に触れて聞かされた内容を覚えており、それらを後世に残したいと思う。

太平洋戦争の勃発から約一年が経過した昭和17年12月20日、この町にオランダ人44名が捕虜(当時の正式名称は俘虜(ふりょ))として連行されて来た<sup>3)、4)、5)</sup>。それ以来、彼らは終戦までの約2年9ヶ月を三次の収容所で過ごした。彼らは、オランダ軍の病院船の医師、看護婦(現在では看護師とすべきであるが原文のまま載せる)を含むスタッフであったに

もかわらず、守られるべき戦時国際法に則らない不当な扱いを受けながら生き延びた。日本の敗戦により、幸いにも全員が母国オランダへ帰国することができたが、三次を去る昭和20年9月12日までの間に起こった一つの事件について、特にここに記したい。

すなわち、彼らの中の一人の婦人が手術を必要とする消化器系の重篤な疾患に陥った時、戦時下の多くの困難の中で、敵国人の捕虜を扱うという大きな障害を越え、人道的な立場で彼らを支え、外科手術を執刀し救ったのが祖父・荒瀬秀俊であった。



荒瀬秀俊(1961)

## 1. 老婦人から渡された新聞記事と児玉婦長の話

### 1.1 新聞記事を渡された

私の仕事場、三次市君田診療所に勤務を始めた平成4(1992)年から、恐らく10年以上が経過した2002年頃だっただろうか。ある日、外来に通院する一人の老婦人が、診察を終わると同時に「先生、先生のおじいさんが戦争中収容所で……というこの話、知ってってです?(知っていっちゃいますか?)」と尋ねてきた。「ええ、まあ」と曖昧な返事で応えたが、「すごいことされたんですね、私らの誇りですよ」とやや興奮気味に話す患者に「ありがとうございます」とだけ応えた。そしていつものように「お大事に」と声をかけたが、同時に次の患者が入室して来ており、そのことを考える時間もなく診察を続け、その日を終えた。この老婦人も含め、特に病状が安定している場合、次の診察日は、だいたい投薬に合わせ2週間後が一般的であった。しかし、その2~3日後、同じ夫人が、私に渡したいものがあると来院された。大きな封筒の中に数点の資料、中にはコピーと思われる何枚かを、ホッチキスで束ねている。細かな文字でびっしり埋められている紙面には、関係する部分を赤鉛筆で線引きしたり、囲んだりした作業の跡が残る資料であった。主に中国新聞あるいは地域で発行された歴史に関する冊子などの抜粋で、ほとんどが大戦中に三次にあったオランダ人収容所での出来事に関係した内容であった。子供のころ、荒瀬病院の児玉婦長からも聞かされなかった話や、私が全く知らなかったエピソードなども含まれていた。活字になっているせいか余計に祖父の生前の一時期が輝いて思えた。医療以外のエピソードも含まれており、もちろん児玉婦長が生きていれば、すべて知っている内容ではあったろう。

### 1.2 児玉婦長から聞いた話

児玉婦長は、この出来事を良く私に話してくれた。しかし私はまだ10歳にも満たなかったもので、興味は殆どなく、聞いているフリをしたり、始まりそうになるとその場から逃げたり、「その話は何回も聞いたから」と、ややひねくれるイヤなガキだった。それから数年後の小学校5年生になった頃、様々な出来事に興味を示し始め、児玉婦長の体験した戦争中の出来事にも、それまでと逆に知りたい、もっと詳しく教えてもらいたいと思うようになっていたが、それまで反抗して来たせいで、こちらからはなかなか言い出せなかった記憶がある。

児玉婦長は21世紀になって間もなく90歳の生涯を閉じた。看護婦として、荒瀬病院と患者のために、尽くしきった明治の女性であった。彼女は、基本的な看護技術及び医学の基礎を身につけ、正看護婦の資格を持ち、恐らく当時としては人数で言えば医師の数より少なかった最先端の女性であった。このまま私が何もしなければ、語り継ぐ人も無く、貴重な話が埋もれてしまう。天国の祖父が「おもしろくないのー」と私の夢枕で言いかねないプレッシャーを感じて、まとめ直してみる気持ちになった。

## 2. それは戦時下、

昭和17(1942)年のこと<sup>3)、4)、5)</sup>

### 2.1 ジャワ島近海で拿捕され三次に収監されたオランダ海軍病院船関係者

1941年12月、真珠湾攻撃により開戦間もない1942年2月オランダ海軍病院船『オブ・テン・ノール号』はオランダの植民地であったジャワ島近海の周回航路で日本軍に拿捕され、その内79名が横浜まで連行された。その中の軍医6名、歯科医師1名、看護師17名(内15名が看護婦)、さらに船長であるタウジン

ハ氏以下乗組員20名(内18名はオランダ国籍、2名はインドネシア人の機関士)の計44名は「非戦闘員」であった。

戦時下の昭和17(1942)年4月2日付けの朝日新聞記事<sup>10)</sup>(現地発信3月31日)によると、オブ・テン・ノール号は昭和17年2月27

日から3月1日までのスラバヤ沖海戦の際には敵艦の中央にいたという。斎藤、阪本の両記者がこの船に乗船して取材したのは日本軍に拿捕されてマカッサルに停泊していた時である。乗っていたのは、船員182名(このうちオランダ人の高級船員22名、他はインドネ

|     |      | 【名簿2】 第2期広島県三次抑留所名簿                                                  |                         | 42年12月～45年8月 |    |            |
|-----|------|----------------------------------------------------------------------|-------------------------|--------------|----|------------|
| 抑留所 | 国籍   | 氏名(関公文書館史料)                                                          | 氏名(外務省史料)               | 年齢           | 性別 | 職業その他      |
| 広島  | 1 蘭  | Tuizinga, Gerrit                                                     | G・タイジンハ                 | 51           | 男  | 船長         |
| 広島  | 2 蘭  | Meisenbacher Ulrich August                                           | U・A・メイゼンバッケル            | 39           | 男  | 二等機関士      |
| 広島  | 3 蘭  | de Best, Adriaan                                                     | A・ドゥ・ベスト                | 37           | 男  | 二等機関士      |
| 広島  | 4 蘭  | Verhoef, Pieter Jan Govert                                           | P・G・フェルーフ               | 33           | 男  | 三等機関士      |
| 広島  | 5 蘭  | Van der Wolf, Dirk Gerrit                                            | D・D・ファン・デ・ウルフ           | 41           | 男  | 二等機関士      |
| 広島  | 6 蘭  | de Roy van Zuydewyn, Charles Anton                                   | C・A・ザイドブエン              | 37           | 男  | 三等機関士      |
| 広島  | 7 蘭  | Willems, Louis                                                       | ルイス・ウィルムス               | 36           | 男  | 三等機関士      |
| 広島  | 8 蘭  | Hendrike, Derk                                                       | ダーク・ヘンドリック              | 32           | 男  | 四等機関士      |
| 広島  | 9 蘭  | Kuken Thijs                                                          | T・コイクエン                 | 32           | 男  | 四等機関士      |
| 広島  | 10 蘭 | Bakker, Johannes Bernardes Godefrides                                | J・B・G・バックル              | 32           | 男  | 五等機関士      |
| 広島  | 11 蘭 | oost, Pieter                                                         | ピーター・オースト               | 26           | 男  | 五等機関士      |
| 広島  | 12 蘭 | Stijve, Nikolaas                                                     | N・スティーベ                 | 25           | 男  | 五等機関士      |
| 広島  | 13 イ | Soediren                                                             | マス・スディレン                | 24           | 男  | 五等機関士      |
| 広島  | 14 イ | Soedarsono                                                           | スダルソノ                   | 28           | 男  | 電気技師       |
| 広島  | 15 蘭 | Dirkse, Jakobus                                                      | J・ディルクセ                 | 53           | 男  | 司厨長        |
| 広島  | 16 蘭 | Koenen, Francois Louis Mathieu Getrude                               | F・G・クーネン                | 50           | 男  | 料理人頭       |
| 広島  | 17 蘭 | Sehuur, Cornelis Johannes                                            | C・J・スヒニール               | 40           | 男  | 無線技師長      |
| 広島  | 18 蘭 | Van de Poel, Johannes Casper Bollmann, Theodorus Stephanus Everardus | ジョネス・C・ファンデポール          | 51           | 男  | 機関長        |
| 広島  | 19 蘭 | Mulder, Johannes Jacobus                                             | T・S・E・ボールマン             | 42           | 男  | 一等運転士      |
| 広島  | 20 蘭 | Mellema, Andries Willem                                              | J・J・ミュルター               | 45           | 男  | 事務長        |
| 広島  | 21 蘭 | Vreede, Jan Johannes Antoni Arnoldus                                 | A・W・メレマ                 | 38           | 男  | 軍医長        |
| 広島  | 22 蘭 | Veldhuysen, Adrianus                                                 | J・A・フレーデ                | 45           | 男  | 予備軍医少佐     |
| 広島  | 23 蘭 | Wempe, Johannes Willem Nicolaas                                      | A・フェルトハイゼン              | 45           | 男  | 内科医師       |
| 広島  | 24 蘭 | Van Koeverden Brouwer, Gerrit Hendrik                                | J・W・ヴァンバ                | 49           | 男  | 予備軍医大佐     |
| 広島  | 25 蘭 | Veen, Ruurd                                                          | ファン・クワフルデン・ヴァン・アール・フェーン | 40           | 男  | 予備軍医大佐     |
| 広島  | 26 蘭 | Wiemans, Sjoerd                                                      | アール・フェーン                | 40           | 男  | 予備軍医大佐     |
| 広島  | 27 蘭 | Schouten, Netty                                                      | S・ウィーマンス                | 32           | 男  | 予備軍医大佐(歯科) |
| 広島  | 28 蘭 | den Boer, Hermina Maria Johanna Elisabeth                            | ネリー・スコウデン               | 50           | 女  | 看護婦長       |
| 広島  | 29 蘭 | Hoekveen, Maartje                                                    | H・E・デン・ボール              | 44           | 女  | 看護婦        |
| 広島  | 30 蘭 | van Waning Bolt, Agnes, Elisabeth                                    | M・フックフェーン               | 44           | 女  | 看護婦        |
| 広島  | 31 蘭 | Leendertsz, Anna Margaretha                                          | アグネス・ファン・ヴァニング・ボルト      | 36           | 女  | 看護婦        |
| 広島  | 32 蘭 | van den Berg, Anna Wilhelmina                                        | A・M・レーンデルツ              | 44           | 女  | 看護婦        |
| 広島  | 33 蘭 | de Boer-Gerth van Wijch, Jeanette Margaretha                         | アンナ・ウィルヘルミナ・ファン・デン・ベルグ  | 34           | 女  | 看護婦        |
| 広島  | 34 蘭 | Gunther, Petronella Hermina                                          | J・M・デブール・ハルツ            | 51           | 女  | 看護婦        |
| 広島  | 35 蘭 | Mackay, Willemina Johanna                                            | P・H・フィテル                | 53           | 女  | 看護婦        |
| 広島  | 36 蘭 | Smaardijk, Johanna                                                   | W・J・マカーイ                | 43           | 女  | 看護婦        |
| 広島  | 37 蘭 | Vos de Wael, Maria Immaculata, Antonia Ernesta                       | J・スマルディック               | 51           | 女  | 看護婦        |
| 広島  | 38 蘭 | Brouwer, Charlott Geertruida Jansje                                  | マリア・フォス・デ・ヴァール          | 40           | 女  | 看護婦        |
| 広島  | 39 蘭 | van der Wolfnee van Bers, Clementine Maria                           | C・G・ブラウワ                | 43           | 女  | 看護婦        |
| 広島  | 40 蘭 | Heil-Zuur, Tilly                                                     | C・M・ファン・ベルス             | 42           | 女  | 看護婦        |
| 広島  | 41 蘭 | Smits, Elisabeth Petronella Cornelia                                 | A・M・ヘイルジュール             | 39           | 女  | 赤十字看護婦     |
| 広島  | 42 蘭 | van den Bosch, Gerardus                                              | E・P・C・スメッツ              | 45           | 女  | 看護婦        |
| 広島  | 43 蘭 | Rekers, Willem Joham                                                 | G・ファン・デン・ボッシュ           | 43           | 男  | 看護士        |
| 広島  | 44 蘭 |                                                                      | W・J・レーケルス               | 29           | 男  | 看護士        |
|     | ①    | 国籍欄のイはインドネシア人を示す。                                                    |                         |              |    |            |
|     | ②    | 年齢は1945年8月時点のもの。                                                     |                         |              |    |            |
|     | ③    | 職業欄は外務省史料による。                                                        |                         |              |    |            |

第2期広島県三次抑留所名簿：小宮まゆみ氏より外務省資料



シア人)、軍医7名、オランダ人看護婦15名、患者23名であった。オランダ人高級船員22名＋軍医7名＋看護婦15名の合計は44名になる。

広島県双三郡三次町(現三次市三次町)にあった元保育園(愛光園)を改築した収容施設へ44名は収監された。日本側の管理は、日本軍ではなくて三次警察署が当たった。非戦闘員として捕らえられた場合、その扱いは戦闘員捕虜とは別に、衣食住など、待遇について配慮がされるべきであった。しかし、一般捕虜(戦闘員捕虜)と変わらない処遇にまでレベルを下げ、更に戦争の経過と共に物資不足の影響もあってひどくなる一方で、惨めな生活を強いられた。彼らは、母国へ帰る日を夢見て、互いに励まし合い、耐えていたのであろう。

## 2.2 ブラウワ婦人の罹患と日本側への要請

その収容生活の中で一つの出来事が発生した。病院船スタッフの一人、看護婦のブラウワ婦人が、消化器の疾患に罹患していることを、同じ収監者のオランダ海軍軍医により診断された。捕虜であるがため、適切な対応は何一つできなかった。同僚の軍医は、もちろん薬による治療をしようとしたが、病院船が拿捕され、全て没収され、治療に必要なものは殆ど無かった。症状は改善されないばかりか、初期には吐き気だけであったが、次第に食後の嘔吐が始まり、ひどくなる一方であった。

捕虜として収容された病院船スタッフ他、非戦闘員あるいは一般戦闘員捕虜も含め、処遇については国際法上の規約により、彼らの健康管理のため、月に一度、日本人医師の巡回診療が義務付けられているはずであった。ところが収容されて2ヶ月間は巡回診療が行われたが、何か理由があったのか、その説明

も無いまま、その後一度も医師巡回はなくなった。彼女の状態は、発症初期に診察され適正な投薬が為されていれば、治癒が可能なはずであった。オランダ人軍医は日本人医師の往診を繰り返し要請した。しかし何の音沙汰も無く経過し、せめて薬だけでも、との要請を収容所職員経由で日本軍関係者に訴え続けたが無しのつぶてであった。患者の病状はさらに悪化の一途を辿り、主に栄養状態が悪くなって、このままでは危険であった。オランダ人捕虜の医師の判断では最悪の場合外科手術が必要で、日本人医師の往診の要請を繰り返したが、いっこうに医師は来なかった。約2ヶ月が経過する頃、ついに彼女は口からの飲食物を全く受け付けなくなった。著しい栄養障害と脱水状態が加わり、危機的状態になった。猶予は全く許せないところまで来ていた。

この最悪の状態に加え、時折意識障害が発症するに至り、外科手術による治療が残された唯一の方法と診断された。診断したそのオランダ人軍医達も10kg以上も体重が減少していた。患者の肌はロウのように青ざめ、徐々に明確な意識障害を伴い始めた。緊急の手術を行うには、兎にも角にも日本人医師に診察してもらうことが先であった。そのため焦燥感がつのり、普段の彼らの振る舞いが、次第に荒々しく変化してきていることから、収容所の職員達もただならぬ状態であると感じ始めていた。

## 2.3 「ブラウワ婦人」の状態について

オランダ人軍医は『胃の幽門部狭窄』と診断した。この幽門付近は、健康な状態であれば、ゼン動運動により、食物をスムーズに胃から十二指腸へ送り出す部分である。しかし、そこは胃潰瘍あるいは直結する十二指腸の潰瘍も好発する部位で治療に難渋する症例も少



なくない。胃潰瘍に適正な治療が行われない場合、最悪の場合、潰瘍が深くなりついには穴があいてしまう、これは「胃穿孔」と呼ばれ、重い腹膜炎「穿孔性腹膜炎」を合併しうる。彼女もまさにこの状態に近かった。細かな経過は不明だが、人の潰瘍の多くはストレス、つまり精神的、肉体的に過酷な状況が原因で、この患者についても過酷なストレスに晒されていたことは想像に余りある。

## 2.4 医師は来たが一人目も二人目も無言で立ち去った

彼らの熱意が通じたのか、待ちに待った日本人医師が収容所に往診に来た。これでやっと次のステップへ進めると迎え入れてみたが、ベッドサイドまで足を運んだドクターは、何もしなかった。治療どころか触診さえせずに、一言もしゃべらぬまま踵を返して部屋を出て行ってしまった。おおよその症状くらい

は往診の前に聴いていたはずである。消化器症状を主訴とした疾患を診断する上で、腹部の触診は、絶対に避けては通れない基本的手技である。指先による触診は言葉による説明より何倍もの情報を医師にもたらずははずである。にもかかわらず、それすら行わず出て行ってしまった。オランダ人医師は、それでも何か進展すると期待し、対応を待った。間もなく二人目の日本人医師が患者の元を訪れた。しかし、捕虜たちの期待にもかかわらず、二人目の医師も全く同じで、何もせず出て行ってしまった。

## 2.5 事態はギリギリの所まで進んでしまった

その後、何の進展もなく、時間だけが無駄に過ぎ、患者を見守ってきたオランダ人軍医達には、その時点で既に手術のタイミングを逸したと思えた。言い換えれば『手遅れ』とも言える危機的状態にまで陥った。しかし彼



旧荒瀬病院の往診などに戦時中まで使われた人力車。

下川立町の荒瀬病院に置いてあったものを回収して荒瀬外科医院に展示（小宮まゆみ氏撮影）

らの訴えも日本軍の上層部に届く可能性はないと判断するに至った。彼らは、非常手段に訴えてもこの状況を打開するしかないと追い込まれた。もし病院船の中であれば、潤沢な薬剤があり、緊急手術には手術室があった。そこには器具、手術用ベッド(手術台)さらに无影灯等があり、そして成功させるために最大の要因である医師、看護婦等スタッフによって100%の対応が採れたことだろう。しかし、この収容所には自分たち医療関係者がただけで何の手術道具もなかった。この見捨てられた状況に、オランダ人軍医および医療スタッフおよび病院船スタッフは、いよいよ自分たち自身の手で手術を行わなければ彼女を助けることは出来ないと考えた。

## 2.6 日本人関係者も同情の気持ちを持った

彼ら全員が、収容されたときに比べると10kg前後の体重減少になるほどの処遇に耐え続けてきた。近くで見えてきた収容所職員の日本人の関係者にも、いや最も近くで見えてきたからこそ、いまや彼らを助けたいと願う気持ちが湧いていた。いつしか立場を超えて、同情の気持ちが生まれ、変化が現れ始めていた。児玉婦長の懷古談によると、そのご時勢にあつては、あからさまな同情の言葉は言えない。そのようなそぶりがバレただけでも罰を免れない時代だったと、収容所と関わりのあった人が、当時の気持ちを話してくれたそうである<sup>5)</sup>。

日本の協力が得られなくても、オランダ人軍医達は、自らの手による開腹術が、速やかに行えるよう準備を要請しようと考えたが、危篤状態の患者を助けるため、考えている時間はもはや彼らには無かった。目標を見失いそうになる気持ちを奮い立たせ、日本の軍関係者の高官に直訴する決意を固めた。

## 2.7 手遅れ寸前で船長が採った覚悟の一策

二人目の日本人医師が何もせず患者のもとを去った次の日の早朝、その計画が実行された。実行した病院船船長のタイジンハ氏はクルーの一人だけに、自分に何かあったときのため、これからやろうとすることを打ち明け、仲間に後を託した。夜明けを待ってタイジンハ氏が行動に出た。それは、収容所を囲っている板塀を、破壊するというものだが、単純で危険かつ幼稚な計画に思える。しかしこの計画を立て、自ら実行したのは病院船船長の大佐であった。単なる反抗の意を現すのではなく、患者を助けるための最後の作戦が開始された瞬間であった。その行為は即座に見張りに阻止され、三次警察署の地下の独房に24時間留置されることになった。確実に要求を伝えるために、スマートではない方法であるが、最後の手段として危険覚悟で打って出た時の気持は想像するに余りある。

船長は、社会的にも高い地位にあり、専門分野はもちろん一般教養にも長け、この病院船においてはクルーおよび医療スタッフ全員の代表者である。そのような高い地位の者が現行犯として逮捕された場合、日本の対応もそれなりの地位の者が取り調べにあたる可能性を考えての行動であった。この取り調べに際してこの地域の日本軍の高官を引き出すことに成功した。

想像の域を脱し得ないが、状況を考えると、彼らの要求は、真に「同胞に手術を受けさせたい」と言うものであったろう。しかし、訴えを受けた日本軍は、施設や医師を確保するだけでも、当時の状況から難しかった。例えば、同じ要望が、大きな都市、例えば広島市であれば、可能な施設として広島医専の附属病院外科に協力を求めることもできたかも知れない。しかし患者には、70kmの移動に耐えるだけの体力は既に残っていなかった。人口

も二万人に満たない広島県北の『三次』では、オランダの捕虜からの要望を充たすことは相当困難な問題に思われた。

## 2.8 収容所の患者のことが児玉婦長から荒瀬秀俊へ伝わった

この切羽詰まった状況がどのような経路を経て祖父に辿り着いたのかは、今となっては知る者もない。幸いなことに、その捕虜収容所は、日々の診療に追われていた祖父の荒瀬病院から、350m位の近い場所にあった。収容所から開腹手術を緊急に行う必要のある患者がいるので、手を貸してもらえないものかという依頼が婦長に届いた。軍からの要請を、祖父に伝え、祖父はすぐに往診の準備をさせ、速足なら4分少々距離にある収容所へ往診鞆を抱えた児玉婦長を伴って向かった。既に連絡が届いており、憲兵が最敬礼で祖父らを迎え入れた。

児玉婦長は、傍らで無言のまま祖父の一举一動を観察するオランダ軍医長ともう一名の軍医および看護婦長の三人の視線を感じたそうだ。明らかに懐疑的・敵対的であり、時折小声で何かをささやき合い、猜疑心を隠しきれないように見えた。軍の通訳から外科医であるというぐらひは聞かされていたとしても、自分たちが執刀するつもりであった彼らにしてみれば、何より急いで手術の準備をしてほしい気持ちが、優先していたであろう。4～5分だろうか患者がしゃべれる状態ではなかったため祖父の無言の診察が終った。実際のところは、患者であるオランダ人看護婦はその際、100%意識消失の状態ではなかったが、初対面の日本人の医師が何者かもわからない恐怖感があった。一種の精神的防御とでも言うか重症ではないふり、例えば「痛い」とかある種のうめき声のような反応を表さないよう精いっぱい演じていたと後日談に記し

てある<sup>78)</sup>。条件が整えばすぐにでも手術を始めたいと言う彼らの要望通り、見るからに相当重症である印象を祖父は受けた。オランダ人医師や看護婦が、祖父について、この人が誰で、何者なのかを尋ねたらしいが、通訳は意思疎通に苦労している様子が祖父にも分かったようであった。祖父は横たわる患者を前に、大きく深呼吸した後、診察し、ベッドサイドで見守る二名のオランダ海軍軍医及び総婦長等に視線を向け、「私の病院で手術します」と言い放った。祖父の言葉に対し一瞬の間があり、彼らの戸惑いは隠せなかった。しかし、ここから少しずつ流れが変化してくる。祖父は彼らに向け直接英語で話しかけ、同時に児玉婦長へ、すぐ荒瀬病院へ運ぶよう指示した。横たえたまま運ぶため、救急車もストレッチャーもない時代、使用したのは布製の担架だった。

## 2.9 手術への立ち会いもOK

収容所での劣悪環境に加え、こと医療に関して裏切られ続け、挙げ句の果てに仲間を緊急手術の必要な事態にまで追い込まれた彼らであった。初対面の日本人医師の説明を聞き、その内容が寸分違わず彼らと同じ見解であっても、祖父の執刀をはたして納得して受け入れたのだろうか？祖父の話に対し彼らの表情や態度は猜疑心に満ちたものであったのは、致し方ない。立場上、祖父の執刀の申し出に、うなずいては見せたが、同時に彼らは「手術に立ち会いたい」と強く求めた。それに対して、祖父はあっさりと、当然そのつもりであることを告げた。「まあ、わしに任せておきんさい」という彼の絶大なる自信である。(以下次号)

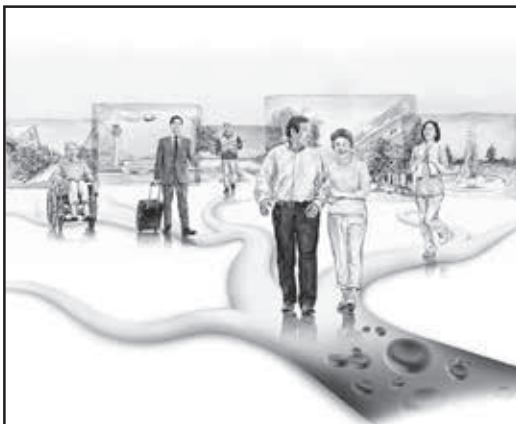
#### 引用文献

- 1) 溝田武人、荒瀬病院旧邸代主に関するある伝聞について、巴杏、三次地区医師会会報、No.164、pp.21-26、2018.10
- 2) げいびグラフ、巻頭人物風土記、荒瀬秀俊、(株) 菁文社、第44号、昭和61(1986)年7月5日発行
- 3) 支局ノート、戦争の不条理伝える抑留所<三次>、中国新聞北部版p.27、平成12年、2000.9.8
- 4) 米丸嘉一、戦時中の三次捕虜収容所についてーオランダ国立公文書館文書からー：三次地方史、第54号、2000.9.20三次地方史研究会発行
- 5) 平和を考える、三次英米人抑留所の貴重な写真、欧米流の交流の礎に、朝日新聞広島版、2009(平成21年)10月7日
- 6) 三神國隆、海軍病院はなぜ沈められたかー第二氷川丸の航跡ー、光人社、ISBN4-7698-2443-2 c0195、2005.1.15
- 7) 「つらかった収容所の生活」オランダ人元捕虜32年ぶり三次訪れる、中国新聞、昭和53(1973)年1月29日
- 8) 朝刊コラム、ほのぼの欄、国境越えた良心のメス、中国新聞1990.2.2、p.26
- 9) 20世紀スポット、㊟三次の抑留所・捕虜収容所、戦時下に園舎が変ぼう、国境を越えて交流芽生える、中国新聞、平成12年、2000.8.29
- 10) 贅澤な“海の病院”、皮肉や自国の捕虜を満載輸送、抑留下の和蘭病院船、朝日新聞、昭和17(1942)年4月2日



手術室で執刀中の荒瀬秀俊(眼鏡着用)、左端が児玉ハズエ看護婦長





Lixiana<sup>®</sup>  
edoxaban

経口FXa阻害剤

**リクシアナ<sup>®</sup> 錠・OD錠**  
15・30・60mg

一般名：エドキサバントシル酸塩水和物  
処方箋医薬品 注意－医師等の処方箋により使用すること

OD錠  
新発売

※効能・効果、用法・用量および警告・禁忌を含む使用上の注意等  
については製品添付文書をご参照ください。



Daiichi-Sankyo

製造販売元（資料請求先）

**第一三共株式会社**

東京都中央区日本橋本町3-5-1

2017年11月作成

命のために、  
できること  
すべてを。



大日本住友製薬

Innovation today, healthier tomorrows

まだないくすりを  
創るしごと。

明日は変えられる。



**astellas**

[www.astellas.com/jp/](http://www.astellas.com/jp/)

アステラス製薬株式会社

# PHC



**ADVATAGE 1**  
使いやすい入カインターフェイス



**ADVATAGE 2**  
記録・判断・説明が便利に



**ADVATAGE 3**  
豊富なデータベースによるチェック機能



**ADVATAGE 4**  
医療事務業務のさらなる効率化を支援



医事一体型電子カルテシステム  
**medicom-HRV**

—— お問合せ・デモンストレーションのご依頼などお気軽にご連絡下さい！ ——

## PHCメディコムネットワークス株式会社

<https://www.phchd.com/jp/phcmn/>

広島営業所 〒733-0002 広島市西区楠木町 2-8-7 TEL(082)239-3366 代 FAX(082)238-2279



アレルギー性疾患治療剤

薬価基準収載

# ルパフィン® 10mg

**RUPAFIN Tablets 10mg** (ルパジンフマル酸塩錠)

処方箋医薬品 (注意 - 医師等の処方箋により使用すること)

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

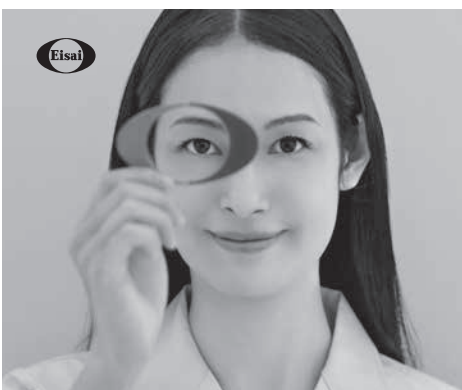


販売 (文献請求先及び問い合わせ先)  
田辺三菱製薬株式会社  
大阪市中央区道修町3-2-10



製造販売元  
帝國製薬株式会社  
香川県東かがわ市三本松567番地

2019年4月作成



Eisai

hvc  
human health care

## 患者様の想いを見つめて、 薬は生まれる。

ヒューマン・ヘルスケア企業 エーザイ

エーザイはWHOのリンパ系フィラリア病抑制活動を支援しています。



## 禁煙推進・ 受動喫煙防止活動 報告 2019.1.~5.

あんどろ眼科

安藤 仁



今年の世界禁煙デーのテーマは？

WHO世界禁煙デーのテーマ:

**Tobacco and lung health**

厚生労働省のテーマ:

「2020年、受動喫煙のない社会を目指して～  
たばこの煙から子ども達をまもろう～」



2016年以来同じテーマを4年続けています。  
来年も続けるのでしょうか。2020 東京  
オリンピック・パラリンピックですから。

～たばこの煙から子ども達をまもろう～  
は、

大賛成です。喫煙防止教育が最も大切です。  
ニコチン産業が最も困るテーマでしょう。

**世界禁煙デー・イベント in 三次**

**2019.5.25.(土) 14:00～16:00**

**サングリーン・1階 センターコート**

禁煙相談・受動喫煙防止相談のほかに、  
今、タバコ製品販売量の30～50%まで普及が  
進んできている **加熱式タバコ**についての  
**市民アンケート調査**をする予定で準備をして  
います。

5月26日(日)は、日本医師会主催の同時  
中継日医かかりつけ医機能研修制度応用研修  
会が、10時から17時15分まで三次中央病院で  
行われるため、世界禁煙デー・イベントを  
25日土曜日にしてみます。

小学校の運動会前日なのでお客さんが多く  
なればイベントに参加していただける人が増  
えるかと楽しみにしています。

禁煙指導をする禁煙外来担当医の皆さんの  
参加は、大阪に行ったり、仙台に行ったり、  
同窓会があったり、施設の診察があったりで  
何時ものことですが前途多難。

市役所健康推進課の皆さんと、多職種連携  
の知人にお手伝いをしてもらいましょう。

加熱式タバコと電子タバコについて

情報提供をしましょう。

**電子タバコ**には外国では、ニコチンが入っ  
ていますが、**日本では、ニコチンが入っ  
ていません。薬機法**(医薬品医療機器等法  
2014.11.薬事法を改正)でニコチン入りリキッ  
ドを使うものは厳しく規制されています。

一方、普及が半端でない**加熱式タバコ**は、  
**葉タバコ**を使用しているために薬機法の厳し  
い規制を免れていて、**たばこ事業法**で管理さ  
れています。

故意に厚生労働省の管理下に置かないでいる  
ため、タバコの葉を使っているからと加熱式  
タバコの販売を財務省が、事の重大性をさほ

ど考えずに許可したと思われます。課税率を安くし過ぎていたので税率を上げる事になってしまった。

アメリカでは 1998年各州政府とタバコ業界との医療費求償訴訟などをめぐって一括和解合意が出来ていました。タバコの許認可が、FDA（食品医薬品局）に移っていたために、安全性を証明できていない加熱式タバコの販売は許可されていません。（今年、スコット・ゴットリーブ長官が後退したので心配ですが・・・心配が現実になってしまいました。

ヤフーニュース 5月5日石田雅彦氏の報告がありました。FDAが4月30日アイコスを限定的ながら米国内で認めると発表。フィリップスモリス・USAはジョージア州アトランタでテスト販売をすると公表している。なぜ加熱式を認めたか？ニコチン入り電子タバコが高校生など若い世代に広がっているのでFDAは、加熱式タバコの方がまだ害が少ないかと判断したか？アメリカは、紙巻きタバコを合わせて、電子タバコと加熱式タバコとのトリプル喫煙の世界に突入。ニコチン産業の戦略が色々なタイプの色々な銘柄を出すことだそうです。喫煙被害を分かりにくくさせたいからのこと。）

加熱式タバコは、今まではニコチン入りの電子タバコが許可されている国では、ほとんど売れていないそうです。電子タバコは、模造品が作りやすいのでしょうか？加熱式をニコチン産業は売って儲けたいようです。アメリカでの加熱式タバコの普及がどうなるか注視しましょう。次のターゲットは新興国の裕福層になり、所得の少ない人々には紙巻きタバコを売り続ける戦略ですね。

加熱式タバコ攻勢が激しくなってきました。どんなものでも、タバコはタバコと明快到ダメなものはダメとしましょう。禁煙と受動喫煙防止、喫煙防止教育活動をすすめましょう。そもそもタバコを吸う事はカッコ悪いこと。がんや様々な病気の原因になる厄介

な商品であること。

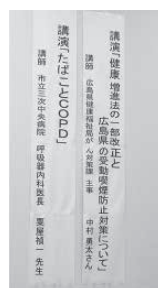
ニコチン産業のお金儲け事業に騙されて、お金も時間も健康も大切な人の健康も奪われかねない怖いことと考える習慣を広めましょう。喫煙者を増やさないことが一番。

ニコチン産業が一番恐れているところが喫煙者の減少です。

喫煙防止教育が一番確実ですね。

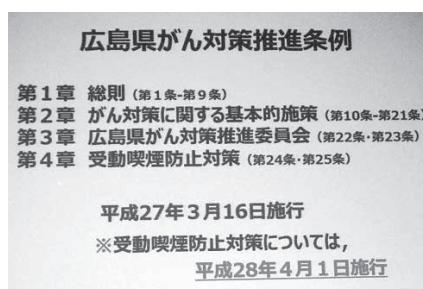
子どもにタバコをすすめますか？

平成31年2月21日（木）午後2時30分からたばこ対策関係者研修会が、備北地域保健対策協議会主催で 北部保健所で開催されました。



最初に 広島県健康福祉局 がん対策課の中村勇太さんから 講演がありました。

「健康増進法の一部改正と  
広島県の受動喫煙防止対策について」



広島県の受動喫煙防止対策の条例は、平成28年4月1日施行されています。





飲食店の店に入るドアーなどに喫煙出来ないお店がステッカーを張って表示することが義務になりました。禁煙店が選びやすくなりました。

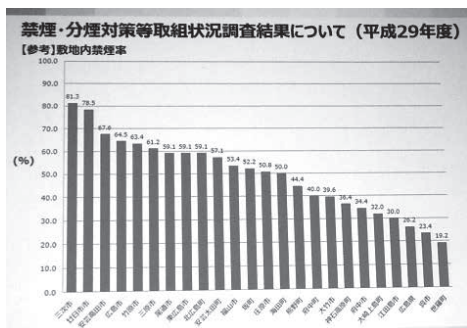
広島県内の禁煙・分煙対策等取り組み状況調査結果を紹介されました。

**禁煙・分煙対策等取組状況調査結果について（平成29年度）**  
【内訳】

| 種 別  | 全施設数  | 禁煙・分煙対策を実施している    |       | 禁煙・分煙対策を実施していない |       |
|------|-------|-------------------|-------|-----------------|-------|
|      |       | 敷地内（施設含む）<br>全面禁煙 | 施設内分煙 | 敷地内全面禁煙         | 施設内分煙 |
| 公共機関 | 2,810 | 966               | 1,668 | 154             | 22    |
|      |       | 34.4%             | 59.4% | 5.5%            | 0.8%  |
| 学 校  | 904   | 896               | 5     | 3               | 0     |
|      |       | 99.1%             | 0.6%  | 0.3%            | 0.0%  |
| 病 院  | 44    | 33                | 9     | 2               | 0     |
|      |       | 75.0%             | 20.5% | 4.5%            | 0.0%  |
| 合 計  | 3,758 | 1,895             | 1,682 | 159             | 22    |
|      |       | 50.4%             | 44.8% | 4.2%            | 0.6%  |

公共機関で禁煙・分煙対策を実施していない所が0.8%あります。ビックリしました。

公共機関の禁煙・分煙対策等取組状況調査結果について（平成29年度）敷地内禁煙率を調べました。三次市と廿日市市が群を抜いて高くなっています。市役所敷地内禁煙を広島県内で一番目にしたのが三次市で二番目が廿日市市ですので取り組み方が進んでいる。

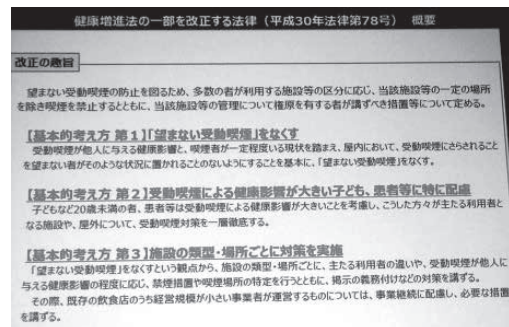


安芸高田市と広島市が65%位で続いています。

健康増進法の一部を改正する法律が2018.7.25.に公布されました。

基本的な考え方は、

- ① 望まない受動喫煙をなくす
- ② 受動喫煙による健康影響が大きい子ども、患者等に特に配慮
- ③ 施設の類型・場所ごとに対策を実施



2019.7.1.より国の法律の方が県条例の第一種と第二種の一部よりも改善されることになる。法律が条例を上回る。

例えば、第一種:学校、高等専門学校、専修学校、児童福祉施設などは、県条例では

①禁煙②喫煙所による分煙 国の改正案では敷地内禁煙（屋外に受動喫煙を防止するために必要な処置の取られた場所に喫煙場所の設置可）と規制を強める、2019.7.1.から。これを受け 新しい県条例ではさらに厳しく**設置不可にすると**4月25日の広島県からの意見募集に書かれていました。この新しい県条例の施行は2020年4月1日から。

一方第一種:官公庁施設（県庁、市役所等）、医療施設（病院、診療所、保険薬局等）、大学などでは、敷地内禁煙とするも喫煙場所の設置は可のままで上乗せ条例にはしないとのことで残念。県庁が敷地内全面禁煙を率先しないのでは、広島県条例に重みが付かないのでは？

| 健康増進法の一部を改正する法律の施行期日について                                                                                                             |                                                    |                      |       |              |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|----------------------|-------|--------------|
| <input type="radio"/> 一部施行①（国及び地方公共団体の責務等）の施行期日は2019年1月24日とする。<br><input type="radio"/> 一部施行②（学校・病院・児童福祉施設等、行政機関）の施行期日は2019年7月1日とする。 |                                                    |                      |       |              |
| 2018年                                                                                                                                | 2019年                                              | 2019年                | 2020年 |              |
| 7月25日                                                                                                                                | 1月24日                                              | 7月1日 9月（ラグビーワールドカップ） | 4月1日  | 7月（東京オリンピック） |
| 法律公布                                                                                                                                 | 一部施行①（国及び地方公共団体の責務等）<br>（2）市町村6ヵ月以内で政令で定める日        |                      |       |              |
|                                                                                                                                      | 一部施行②（学校・病院・児童福祉施設等、行政機関）<br>（2）市町村1年6ヵ月以内で政令で定める日 |                      |       |              |
|                                                                                                                                      | 全面施行（上記以外の施設等）<br>2020年4月1日                        |                      |       |              |

7月1日から第一種施設ではすべてが改正法に変わります。この法律に違反例えば喫煙禁止場所における禁煙を違反すると指導助言をし、守らないと命令となり更に違反すると、30万円以下の過料となる罰則規定がついていました。

健康増進法の一部を改正する法律の概要を厚労省のホームページをご覧ください。

続いて、三次中央病院呼吸器内科の栗屋禎一先生による「たばことCOPD」の講演が 沢山のスライドを使ってありました。

### COPD

(Chronic Obstructive Pulmonary Disease: 慢性閉塞性肺疾患)

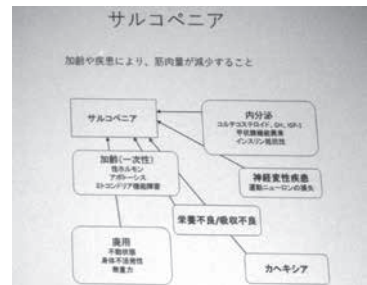
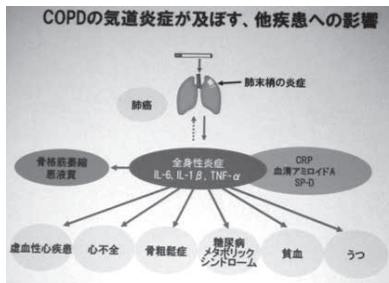
- 慢性気管支炎
- 肺気腫

原因：タバコ煙を主とする有害物質の長期吸入

↓

肺の炎症性疾患

喫煙習慣を背景に中高年に発症する生活習慣病



- 治療は
1. 栄養の摂取
  2. 体重の管理
  3. 運動

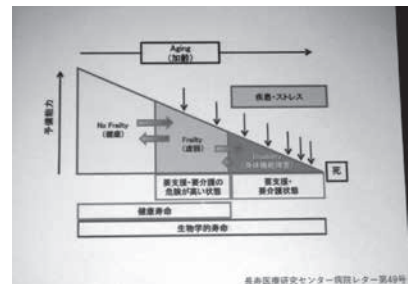
### フレイル

Frailty (虚弱)

「高齢者がかかえる筋力低下による転倒の危険性の増大などの身体的問題のみならず、認知機能障害やうつ病などの精神・心理的問題、独居や経済的困難などの社会的問題までを含む概念」

日本老年医学会

高齢者が要介護とならないよう予防していくことを目的とする概念



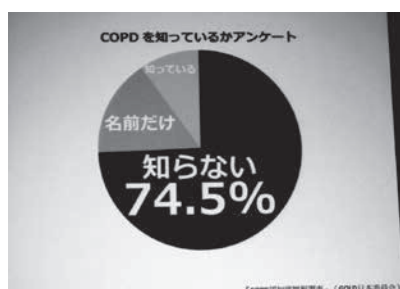
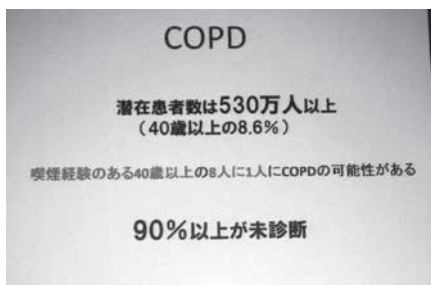
- ### フレイルの評価基準
1. 体重減少  
「6ヵ月間で2〜3kg以上の(意図しない)体重減少がありましたか?」に「はい」と回答した場合
2. 倦怠感  
「(ここ2週間)わけもなく疲れたような感じがする」に「はい」と回答した場合
3. 運動量  
「軽い運動(体操・農作業を含む)を1週間に何日くらいしていますか?」及び「定期的な運動(スポーツ(農作業を含む)を1週間に何日くらいしていますか?」の2つ問いのいずれにも「運動・体操はしていない」と回答した場合
4. 握力  
女性18kg未満の場合  
男性20kg未満、女性18kg未満の場合
5. 通常歩行速度  
測定区間の前後に1mの助走路を設け、測定区間5mの歩行速度を計測する1m/秒未満の場合



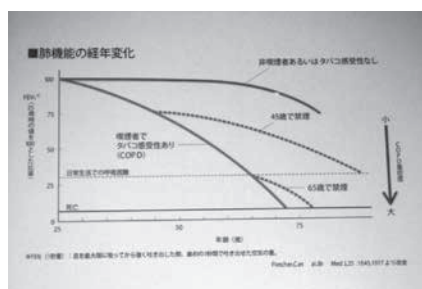
フレイルの予防は

1. 運動
2. 栄養
3. 社会参加

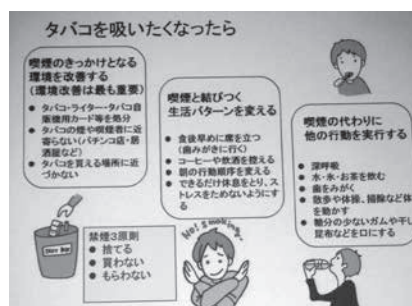
フレイルにならないように身体的にも精神的にも社会的にも、積極的に自分から心がけることが大切と言われていました。



4人に3人は知らない。潜在患者数は530万人以上いると言うのに90%以上が未診断。治療を受けていない。名前がぴんと来ないアルファベット病名なのも一因？と思いますね。タバコを吸っている人には必ず伝えましょう COPD。



- COPDの主な原因は喫煙
- COPDは生活習慣病で多角的治療が必要
- COPDの有病率は8.6%
- 大多数が未診断または未受診
- COPDは死に至る病気
- 禁煙が最も重要

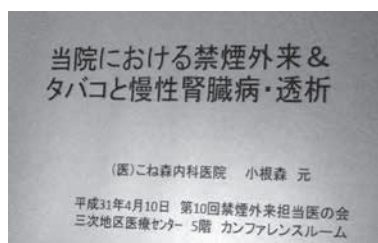


COPDの原因の90%がタバコと言われています。喫煙開始から40年50年と年月がたつてから、せきや淡や呼吸困難が出始めてわかることが多い。落語家 桂歌丸師匠がCOPDになって『陸でおぼれている感じだ』と言われていましたが、相当苦しい様子でした。調べてみますと2017年のCOPDの死亡者は18,523人男性では第8位でした。防ぐには何しろタバコを吸わない、吸わされないのが一番です。

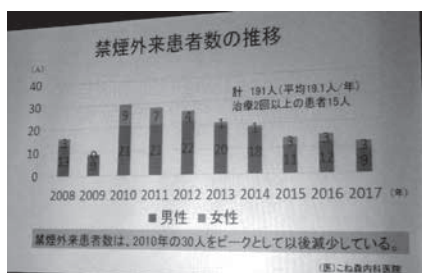
4月10日(水) 19時半から医療センターで第10回禁煙外来担当医の会研修会を開催。

安藤から2月21日のたばこ対策関係者の会での講演の内容を報告しました。

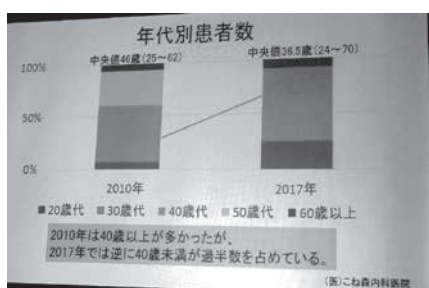
小根森 元先生からは、禁煙外来の様子やタバコと慢性腎臓病・透析についてお話をいただきました。



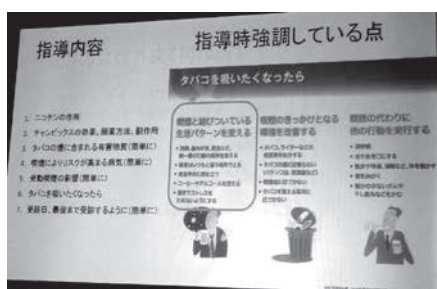




2008年から10年間検討していただきました。2010年が31人と前年の3倍に激増。10月にメビウスが300円から410円に値上げされたように軒並み100円以上の値上がりでした。その後は右肩下がりとなり半減していますと。



中高年 40歳～59歳禁煙外来希望者が減りました。なぜでしょうか？禁煙を諦めたのでしょうか？50代は喫煙率が減ってきていますが。



ポイントを押さえて、時間をかけずに5回の禁煙外来受診ができるようにと心掛けているとのことでした。

続いて、タバコと腎疾患について。



CKD進行やCVD発症および死亡リスクを抑制するためにCKD患者に禁煙は推奨される。

喫煙本数が多いほどCKD進展のリスクが高くなる。

最後に、禁煙防止教育について安藤から。

平成20年告示の小学校学習指導要領では保健の中で喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、健康を損なう原因となることを第6学年で指導するものとなっています。

#### ・【解説】

- 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康
- 喫煙については、せきが当たり心拍数が増えたりするなどして呼吸や心臓のはたらきに対する負担などの影響がすぐに現れること、受動喫煙により周囲の人々の健康にも影響を及ぼすことを理解できるようにする。
- なお、喫煙を長い間続けると肺がんや心臓病などの病気にかかりやすくなるなどの影響があることについても触れるようにする。
- その際、低年齢からの喫煙や飲酒は特に害が大きいことについても取り扱うようにし、未成年の喫煙や飲酒は法律によって禁止されていること、好奇心や周りの人からの誘いなどがきっかけで喫煙や飲酒を開始する場合があることについても触れるようにする。

|       | 平成24年度                                                                                                                                                 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|--------|--------|--------|
| 政府    | <b>がん対策推進基本計画(平成24年6月策定)【平成24年度～平成28年度までの5年間】</b><br>○がんの教育・普及啓発<br>5年以内に、学校での教育の在り方を含め、健康教育全体の中で「がん教育」をどのようにすべきか検討し、検討結果に基づく教育活動の実施を目標とする             |        |        |        |        |
| 文部科学省 | <b>「がん」に関する検討委員会</b><br>文部科学省が主催<br>①1年目 「がん教育」の基本方針について検討<br>②2年目 「がん教育」の在り方について検討<br>③3年目 「がん教育」の在り方について検討                                           |        |        |        |        |
|       | <b>「がん教育」の在り方に関する検討会</b><br>文部科学省が主催<br>①1年目 「がん教育」の在り方について検討<br>②2年目 「がん教育」の在り方について検討<br>③3年目 「がん教育」の在り方について検討                                        |        |        |        |        |
|       | <b>モデル事業の実施</b><br>期待される成果<br>・教育委員会等によるがんの教育用教材の作成<br>・専門医等の協力を得るなど<br>①1年目 希望地域において、事業の実施<br>②2年目 基本方針を基に1年目の実施地域を中心に、他地域へ展開<br>③3年目 事業の課題の改善、普及等を実施 |        |        |        |        |
|       | <b>学習指導要領改訂の必要性について検討</b>                                                                                                                              |        |        |        |        |

がん教育について検討が平成24年度から始まっていました。



| がん対策加速化プラン (平成27年12月)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>がん対策は、「がん対策推進基本計画」(平成24年6月)に沿って進められている。基本計画では、平成18年度から10年でがんの年齢別罹患率を20%減少させることを目標としているが、このペースでは目標達成が難しくなるとも懸念されている。このため、平成27年度から1年に実施される「がんがめ」の下に加速化大法の推進を受け、厚生労働省が中心となり、基本計画に示されている分野のうち、①進んでいるが加速することが必要な分野、②尚ほ分野が加速することにより死と罹患率の減少につながる分野に絞り、広島県の実践に資するがん対策を推進した「がん対策加速化プラン」(主要施策)とすることで、プランの方向性を明確にするとともに、「がんの発生・予防」「がんの発見・治療」「がんの死因」である。(ページ2)</p>                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 予防(ページ3)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 治療・研究(ページ4)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | がんとの共生(ページ5)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <p>① がん検診</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ がん検診実施率の目標値設定</li> <li>・ 市町村、保険者の受診率及び取組事例等の公表</li> <li>・ 保険者に対する検診ガイドラインの策定</li> <li>・ 検診対象者等へのインセンティブの導入</li> </ul> <p>② たばこ対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ FCTCや海外のたばこ対策を踏まえた、必要な対策の検討</li> <li>・ 厚生労働省としては、たばこがんの罹患率の引き上げを継続して留意</li> <li>・ ウェアラブル、集約型センシングデバイスに活用に向けた早期検出防止対策の強化</li> </ul> <p>③ がん患者の自己負担の軽減を推進した。医療費負担の軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療費負担の軽減に関する取組事例の公表</li> <li>・ 「がんの療養費支援事業」の実施、等</li> </ul> | <p>① がんのゲノム医療</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゲノム医療実用化に向けた実証研究</li> <li>・ 全ゲノム解析等の集約データの整備</li> <li>・ 医療機関間のデータ連携の検討</li> </ul> <p>② 標準治療の提供・普及</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最新治療の提供・普及</li> <li>・ がん医療に関する情報提供</li> <li>・ 患者の生活の質を向上させるがん医療の提供</li> </ul> <p>③ がんの早期発見・治療</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小児がん医療の充実</li> <li>・ がんの早期発見・治療に関する研究</li> <li>・ 「がん医療の発展」(医療分野研究)の推進</li> <li>・ 「がん医療の発展」(医療分野研究)の推進</li> </ul> | <p>① がんとの共生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ がん患者の生活の質を向上させる取組事例の公表</li> <li>・ ハローワークにおける就業支援の推進</li> <li>・ 産業・事業主向けセミナー等の開催</li> <li>・ 産業・事業主向けセミナー等の開催</li> <li>・ 企業向けガイドラインの策定及び普及</li> </ul> <p>② がん患者の生活の質を向上させる取組事例の公表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ がん患者の生活の質を向上させる取組事例の公表</li> <li>・ がん患者の生活の質を向上させる取組事例の公表</li> <li>・ がん患者の生活の質を向上させる取組事例の公表</li> </ul> |
| <p>「がん」を克服し、活力ある健康長寿社会を確立</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

避けられるがんを防ぐための、子どもの内から始める「学校におけるがん教育」。

| 今後の学習指導要領改訂に関するスケジュール (国研院の進捗を元にしたイメージ) |             |             |             |             |             |             |             |             |  |
|-----------------------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|--|
| 26年度 (2014)                             | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 31年度 (2019) | 32年度 (2020) | 33年度 (2021) | 34年度 (2022) |  |
| 幼稚園                                     | 幼稚園         | 幼稚園         | 幼稚園         | 幼稚園         | 幼稚園         | 幼稚園         | 幼稚園         | 幼稚園         |  |
| 小学校                                     | 小学校         | 小学校         | 小学校         | 小学校         | 小学校         | 小学校         | 小学校         | 小学校         |  |
| 中学校                                     | 中学校         | 中学校         | 中学校         | 中学校         | 中学校         | 中学校         | 中学校         | 中学校         |  |
| 高等学校                                    | 高等学校        | 高等学校        | 高等学校        | 高等学校        | 高等学校        | 高等学校        | 高等学校        | 高等学校        |  |

着々と、がん教育が周知・徹底されてきていました。2020年小学校2021年中学校と全面実施されるそうです。最近まで知りませんでした。

3月14日に、三次市教育委員会を尋ね学校教育課長さんと主事さんに喫煙防止教育について伺ってきました。

禁煙活動も大切ですが、新しい喫煙者を出さないことも大切だと思います。学校教育では、どの様にタバコ教育がされていますか？

男性の死亡原因の30%は、がんです。がんの原因の30%がタバコです。がん教育に、タバコ教育は欠かせないものにもものと思われれますが。

喫煙と健康についての授業の時に、医師の

先生は来られていません。学校薬剤師、ライオンズクラブの人、警察の人、スクールサポーターなどの人が来られています。

薬物乱用防止教育 非行防止教育の中で喫煙防止教育をしてもらっています。

喫煙防止教育をさらに進めるとなると、学校の先生たちの喫煙防止教育に対する関心と認識を持ってもらうようにしないといけないとのこと。

最初は、すべての学校で取り組んでいる薬物乱用防止教育の中で喫煙防止教育をしていくのが良いのではと言われました。

喫煙についての専門の先生が来てくれれば心強いです。専門の先生の紹介窓口を決めて、いつどの先生が行くかなど分かれば予定を立てやすい。禁煙推進委員会で現場の学校の事情を把握しながら検討してゆきたいと思いました。

どういう内容の話をするかなどについて事前に担任や保健体育、養護の先生たちと話し合いを持って、喫煙防止教育ができれば安心と思いました。

皆様ありがとうございました。加美川先生と藤谷先生が急遽欠席で残念でした。

4月17日(水)に開催された広島県禁煙推進委員会の報告は次号にさせていただきます。



## 平安閣；グランラセーレ三次～互助会 ユーベル～ ご存知ですか？ 平安閣 撤退か。



あんどう眼科  
安藤 仁



三次平安閣



ショールーム

時の流れで 仕方がないと言われそうですが、そうでしょうか？ 本当に仕方がないで済ませますか？ 物分かりが、良すぎませんか！

少子化・高齢化 聞き飽きた言い回しの言葉。三次市の抱えこんでいる課題で、もっと深刻なのは20代、30代の家庭を作るカップルが少ないこと。カップルが出来れば婚礼もありました。平安閣の収益を生み出すのも 婚礼部門。10年前は週4～5組でもあったのでしょうか？ 最近は何時あったかと思うほど激減。結婚式をしないことが増えているのに加え、逆に広島市内の結婚式場でお金をかけた式をすることもあるそうです。そんなこんなで、少なくなった婚礼が三次から消えていく！？

三次市での婚礼を増やすために、三次在住の方でこれからも三次に住み三次で結婚式を挙げるカップルに補助を出せないでしょうか？

50万円まで式場支払額の半額とか。

平安閣のユーベルグループ最初の結婚式場の広島平安閣も2017年8月に耐震問題で閉館し、冠婚葬祭事業にとどまらず生活文化創造型の総合サービス業を目指した建て替えをするとホームページに書かれていますが、リニューアルされていますでしょうか？ 心配ですね。

商工会議所や市役所、医師会、学校関係などの各種会合や、講演会、展示会、謝恩会、歓送迎会、忘年会、クリスマス会、新年会、記念大会などのイベント、また個人的な会合や記念の式などを開くのに市内の中心地で交通の便も良く、隣にグランドホテルもあって宿泊にも便利。医師会でも歓送迎会や忘年会や大きな講演会や研修会の会場に200人ほどの人数が入れる会場として使わせてもらっています。行政や各種団体も市民の個人的利用にも格式のある平安閣が無くなると大変困りますね。私の所属している三次中央ロータ

リークラブは、平安閣を例会場として毎週利用させていただいて30年近くになります。良さをしっかり理解しているものとして撤退を見過ごすことは良しと出来ません。

商工会議所や市役所はどう動くのでしょうか？ **動かないとダメでしょう！**

**市長選挙が** 間近（平安閣の話は、3月19日に聞きました。12月31日までの営業になり、その後は撤退か、院内新聞ふれあい3月27日号にこの話を掲載しました。）

ですが、三次市の対外的な**社会・文化レベルの象徴**になる施設を民間のものだから手を出さないで良いものか？ **市長候補者に聞きたい**。そう思いませんか！

一度施設が無くなると、

次に出てくる事業所が必ずあるとは

考 え に く い。



利用されない施設は取りあえず駐車場だけとなりやすい。従業員さんも不安でやめだすと機能が低下します。人手不足の昨今 早めに存続の判断が望まれます。



**どうしたら営業を継続できるのか！**

ユーベルグループと市役所、商工会議所などで検討してほしい。三次市に魅力を作ろうとして「もののけミュージアム」を作っていますが、市民生活の中で大切な賑わいの場が失われそうです。三次市の**社会的文化的レベル**を、県北の中はもちろん三次市と隣接する島根県の自治体の中で保つためにも大切にしたい出会いの場。

そうです、広域な行政や商工会議所などにお声を掛けたら良いでしょうか！他の市町の人には知らされていないでしょう。最近会った他の市の市議会議員さんに伝えたらたら、「初めて聞きました。平安閣が無くなったら、県北で平安閣に代わる設備はありません。庄原グランドホテルも5月31日で宴会部門はなくなるそうです。安芸高田も無いし。何とかしたい。」

**グランラサレー三次ホームページには** “常に地元三次の皆様には「感謝・感激・感動」をご提供したい。県外から来られたゲストの方々に「また三次を訪れたい」と思ってもらえるような、皆様に愛される式場”と決意を書かれています。

最後が、式場とありますが、これを**皆さまに愛される出会いの場**と書き換えて下さい。ぜひ、平安閣さんにお願ひしましょう。オール三次で、数々の難題に立ち向かうためにも**社会的文化的レベルの象徴となる平安閣の存続が必要です**。出会いの場となる場所が無くなると情報交換が減って寂しいと思いませんか。

広島市に行けばいいとなりがちですが、それでよいのか。広島県は、三次市と福山市があつて広島市と結んで三角形を作ることが大切と思いませんか？ 広島藩、三次藩、福山藩とそれぞれがありました。

市長選挙が4月21日に行われました。新旧の世代交代の流れもあつて見通しが立てにく



い選挙となりました。市議会議員補欠選挙の争いもあり、僅差の争いで前職と新人の厳しい選挙となりました。結果は皆さまご存知の通りで302票差で新人の福岡誠志さんが市長に選ばれました。50.5対49.5でアメリカ大統領選挙のような票の僅差でした。この厳しい結果から考えてみると、増田前市長さんの進めてきた実績を生かせるものは生かして、三次を生き生きとさせましょう。福岡新市長さんには、選挙戦で出されていたいろいろな考えを整理し実行しやすくしてほしい。いくつかのプロジェクトチームを作って実行可能な提案を、市民の代表の市議会はもちろんのこと、直接多くの市民に分かりやすく考えを伝える方法を考えてほしい。

三次全体にオール三次の融和政策を出されるようお願いします。

市長さんの交代がありましたが、どうすれば 三次にとって**大切な 平安閣を** 残せるのか関係者を集めて考え、早めの解決策を出してもらいましょう。5月中、遅くとも6月には話し合いを進めてもらいましょう。

もののけミュージアムの発案者のお一人の市議会議員小田伸次市議会議員さんに、4月27日「もののけパレード」の日にお会いしましたので、平安閣を残すようお願いいたしました。

市議会や市役所、商工会議所などで いい知恵を出してほしいと伝えました。何か、国の中山間地域の活性化事業の補助金はありませんでしょうか？

市役所・市長、市議会、商工会議所、  
県議会議員下森 宏昭 さん、  
県知事 湯崎英彦 さん、  
国会議員 衆議院 佐藤 公治 さん、  
小島 敏文 さん、教育委員会、自治連合会、  
私の属している 三次中央ロータリークラブを

はじめ、県北のロータリークラブやソロプチミスト、ライオンズクラブなどボランティアグループなどお声をかけるところはたくさんあります。

福岡新市長さんもお忙しい日々でしょうが早くユーベルグループの上田勝久社長さんとの面談をお取りください。これからの三次市と平安閣との連携の在り方を話してください。

トップダウンで決めないと両者とも先には進まない難しい判断が必要だと思います。

### 融和を進める 令和

この考えで、どちらにも 社会的・文化的レベルの象徴であります平安閣の存続を熟慮してほしいと祈ります。

暮らしの安心に、前進。

毎日の安心を未来へ繋ぐ。と訴えて

福岡市長さんは当選されています。

医師会や多職種連携の皆さんに市長さんの思いを聞かせていただく事が大切になります。

すぐできることはすぐ実行、時間をかける必要があることはプロジェクトチームを作るなども大切になりますね。

お願いいたします。

注；ユーベルグループは

創業 昭和40年8月1日 創業地 広島市東千田町 代表取締役社長 上田 勝久  
本社 〒733-0035 広島市西区南観音3-16-19  
資本金 2億4,200万円 従業員計2,979名  
(男1,168名・女1,811)平成29年12月現在  
冠婚葬祭互助会事業から会社を発展されてきました。  
ホテル事業 結婚紹介事業 介護事業 外食事業  
スポーツ事業 旅行事業 互助会会員サービス事業  
ホームページを見ると様々なことを手掛けられています。介護事業は最近参入されてきたようです。県北エリアでは、これからの収益は望めないようですとお伝えしました。

ユーベルグループのホームページに



「ハチドリの物語」が書かれています。

南アメリカの先住民に伝わる物語。

ある時森が燃えていました

もりのいきものたちは

われ先にと逃げていきました

でもクリキンディという名のハチドリだけは

いったりきたり

口ばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは

炎の上に落としていきます

動物たちがそれを見て

「そんなことをして いったい何になるんだ」

と言って笑います

クリキンディはこう答えました

「私は私にできることをしているの」

この物語に感銘し地球温暖化防止を目的に

『ハチドリ計画』を立ち上げた辻信一さんの言葉

家族や友だちにハチドリの話をしてあげてほしい。

それもまた「私にできること」

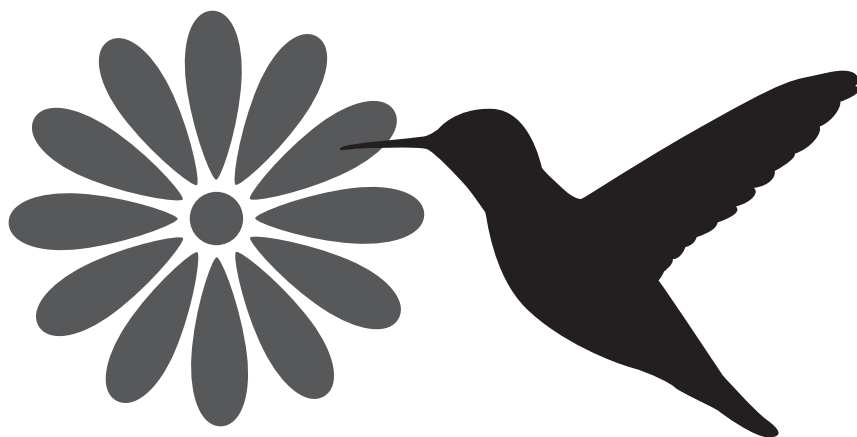
私たちユーベルグループは、『ハチドリ計画』を  
応援しています。

このお話は有名で聞いていましたが、  
ユーベルグループのモットーになって  
いました。

私が平安閣撤退かと聞いたときに何かを  
感じて 食い止めなければとすぐ思い、上田  
勝久社長さんにお手紙を差し上げた事は、  
ハチドリ

クリキンディの **口ばしで水のしずくを一滴**  
だったのですね。

諦めずに伝えます。何千、何万と市民の皆  
さんには、**口ばしで水のしずくを一滴**と同じ  
ような思いを持っていただけないでしょうか。  
平安閣を社会的文化的施設として三次で活用  
できるようにすることに 理解と協力をして  
いただけると、必ず平安閣は活用されると  
確信させていただける新しい物語になると  
思います。



## 会 員 紹 介



市立三次中央病院 消化器内科

ますだ かずひこ  
益田 和彦

今年4月に三次中央病院へ赴任しました消化器内科 益田和彦と申します。出身は北広島町壬生で新庄高校出身です。平成21年兵庫医科大学を卒業、同年4月よりマツダ病院で初期研修をさせていただきました。翌年広島大学 消化器・代謝内科に入局、平成23～26年には庄原赤十字病院で後期研修医としてお世話になりました。これまで北広島町、庄原市、三次市とお世話になってきたことから県北地域に非常に縁があると感じています。広島市大学病院は消化管グループに所属させて頂き、主にはヘリコバクター・ピロリ除菌後の胃癌について勉強をさせていただきました。現在庄原日赤を離れて以来、久しくできていなかった入院患者さんへの内科的管理や救急搬送された重症患者さんへの対応に四苦八苦しながら取り組んでおります。有り難いことに庄原日赤へ勤務していたとき同様、三次中央病院でも科の垣根を越えて相談に乗って頂きやすい環境が整っており非常に助かっています。これから微力ではございますが三次地区の医療に貢献していく所存です。宜しく願いいたします。



市立三次中央病院 消化器内科

まつはら なおや  
松原 直矢

平成31年4月1日より市立三次中央病院消化器内科に勤務させていただいている松原直矢と申します。平成29年に自治医科大学を卒業後、県立広島病院にて初期臨床研修を行い、市立三次中央病院へ派遣となりました。

内科医として駆け出しでございますので至らぬ点多く、皆さまにご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。少しでも早く皆様のお力になれるよう、日々精進させていただきます。

よろしくお願い致します。

## 会 員 紹 介



市立三次中央病院 循環器内科

ひろかわ たつ や  
広川 達也

平成31年4月より三次中央病院循環器内科に勤務させていただいている広川達也と申します。よろしくお願いいたします。

私は平成29年に広島大学を卒業し、そのまま2年間広島大学病院で初期研修を行いました。広島大学循環器内科に入局し、循環器内科医としてはこの三次中央病院が初めての赴任先となります。

赴任して1カ月ほど経ちましたが、新しい環境の中で戸惑うことも多く、周囲の先生方にもご迷惑をおかけする機会も多く大変申し訳なく思っています。一方で、循環器内科の先生方のみならず、他科の先生方にも気にかけていただき、相談させていただきながら診療を行うことができる環境で自分自身成長しなければならないと決意を新たにしています。

三次中央病院の先生方はもちろんのこと、周囲の開業医の先生方にもお世話になりながら、この環境で研鑽を重ね、内科医・循環器医としての基礎を築き上げることができるよう日々精進いたします。三次の皆様どうかよろしくお願いいたします。



市立三次中央病院 呼吸器内科

えぐさ ひろ き  
江草 弘基

初めまして、この度三次中央病院にて勤務させていただく江草弘基と申します。

平成29年に広島大学を卒業の後に広島大学病院で研修を修了し、この春より後期研修医として赴任となりました。生まれも育ちも広島ですが、備北地区に関しては初めてで期待と不安半分に4月より参りました。赴任してまだわずかですが、先輩方からのご指導や多くの同期にも囲まれ一内科医としての修練を積むことができおり、後期研修医としてのスタートを踏み出そうとしているさ中です。

三次中央病院は備北地区の拠点を担う病院であり、専攻の呼吸器内科だけではなく内科全般の知識が日常診療に必須であることを痛感しております。まずはこの一年間様々な知識を吸収して日常診療の糧としお力添えできれば幸いです。専門外来、主治医など初期研修医から一氣に責任のある立場に置かれ身の引き締まる思いですが、責任と同時に自分の行える診療の範囲も大幅に広がり早く一呼吸器内科医として三次地区に貢献したく精進させていただいております。これからもよろしくお願いいたします。

## 会 員 紹 介



市立三次中央病院 糖尿病・代謝内分泌内科  
ひめの なつみ  
姫野菜津美

平素より大変お世話になっております。糖尿病・代謝内分泌内科の姫野菜津美と申します。平成27年に広島大学を卒業し、呉医療センター・中国がんセンターで初期研修を行ったのち、平成29年より広島市立安佐市民病院で後期研修を2年間行い、平成31年4月から市立三次中央病院に赴任しました。当科ですが、呉医療センターのときには略称で「とうない」、安佐市民病院では「たいない」と呼ばれており、安佐市民病院赴任時に一生懸命「たいない」という練習をしたのですが、三次中央病院では正式名称の「とうようびょうないか」が多いらしく、現在かまずに言えるよう練習しております。PHSで名乗る際に科名を申し上げるのがやたら遅く、皆様の貴重なお時間をいただくことがあるかもしれません、申し訳ございません。おそらく6月頃には「糖尿病内科の姫野です」とスムーズに言えるようになる予定ですので、ご辛抱いただければと思います。糖尿病・内分泌領域もまだまだ経験が足りず、内科一般・救急に関してはより一層、皆様に多大なご迷惑をおかけするかと思います。申し訳ございません。ひとつずつ習得できるよう尽力してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



市立三次中央病院 糖尿病・代謝内分泌内科  
こだま りゅういち  
児玉 竜一

今年度から市立三次中央病院糖尿病・代謝内分泌内科で働くこととなりました児玉竜一と申します。出身は広島県の可部です。修道中学校、修道高等学校に進学し、沖縄県の琉球大学に入学しました。大学ではバスケットボール部に所属しておりました。そして平成29年4月に琉球大学を卒業して初期臨床研修を広島県の廿日市市にあるJA広島総合病院で2年間行い、広島大学の糖尿病・代謝内分泌内科に入局をしました。そしてこの春に三次に引っ越して参りました。まだ住み始めて1ヶ月半ほどしか経っておりませんが、三次での生活にも徐々に慣れてきたような気がしております。また内科医としての仕事にも少しずつ慣れてきたように感じておりますが、まだまだ至らぬ点がたくさんあるとは思っています。少しでも皆様のお力になれるよう努力していきたいと思っておりますのでご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



## 会 員 紹 介



市立三次中央病院 腎臓内科

ゆば よしお  
弓場 義雄

平成31年4月より三次中央病院腎臓内科に勤務させていただくこととなりました弓場義雄（ゆばよしお）でございます。広島大学病院で2年間初期研修を行った後、広島赤十字・原爆病院で1年間、呉共済病院で2年間腎臓内科医として勤務し、この春より三次中央病院に赴任して参りました。

三次中央病院ではこれまでの診療経験を活かしつつ、自己研鑽の精神を忘れず日々の診療に臨みたいと考えています。主な業務としては永続的な腎代替療法が必要な患者様の末期腎不全管理（血液透析、腹膜透析など）、血液透析患者様のシャント機能不全に対する経皮的血管形成術（PTA）、慢性腎臓病の患者様の保存的管理といった腎臓内科特有の診療に加え救急外来、初診外来などでの一般内科診療が主になると思います。できるだけわかりやすい説明とともに患者様の納得のいく診療ができるよう努めてまいりたいと考えています。三次地区のお力になれるよう頑張ります。何卒よろしくお願いいたします。



市立三次中央病院 腎臓内科

あだち ゆうほ  
安達 悠歩

今年度より市立三次中央病院に勤務させていただいている安達悠歩（あだちゆうほ）と申します。出身は広島市で、島根大学医学部を平成29年に卒業しました。初期臨床研修を広島赤十字・原爆病院で2年間行い、広島大学腎臓内科に入局し今春から三次に赴任となりました。

仕事に関しては覚えること・考えることが多く未だ慣れませんが、周囲に助けられなんとか日々をこなしています。

至らぬ点はいかと存じますが、今後ともよろしくお願いします。

## 会 員 紹 介



市立三次中央病院 小児科  
いづも ひろき  
出雲 大幹

2019年4月より市立三次中央病院小児科に赴任となりました、出雲大幹（いづも ひろき）と申します。出身は広島市西区で、修道中高を経て広島大学医学部に入学し、H25年に卒業させていただきました。卒業後はマツダ病院で2年間の初期研修の後、広島大学小児科に入局し、これまで国立病院機構東広島医療センター、広島市立舟入市民病院で小児科診療にあたらせていただきました。一般小児科を診療の主としておりましたが、今後は特に小児神経についての知識を深めたいと考えております。

妻が三次市内の出身であり、これまで数度三次を訪れたことはあったのですが、実際に生活拠点を三次に移してから改めて三次の自然豊かな環境のすばらしさを実感しております。

また、私の一番の趣味は野球観戦（カープ）でありましたので、マツダスタジアムへのアクセスが少し遠くなってしまったことは残念ではありますが、近年のカープ人気のおかげでほとんど毎試合テレビ中継があることもあり、あまり不便は感じないことに気が付いた今日この頃です。

まだまだ至らない点が多いとは存じますが、県北の小児医療に微力ながら尽力してまいりたいと考えております。何卒よろしくお願い申し上げます。

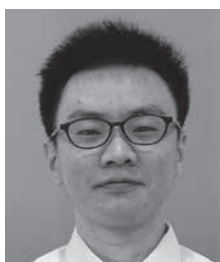


市立三次中央病院 小児科  
やまおか しょうへい  
山岡 尚平

平素より大変お世話になっております。平成31年4月から市立三次中央病院小児科で勤務をさせていただいている、山岡尚平と申します。平成27年に島根大学医学部を卒業し、初期研修を呉共済病院で行いました。その後は広島大学小児科医局に所属し、平成29年から舟入市民病院、平成30年からは県立広島病院の新生児科で勤務をさせていただきました。

現在医師5年目で今回は後期研修の一環として三次の地で勤務を行う運びとなりました。まだ勤務させて1カ月が過ぎたばかりですが、県北地域に小児科が少ないこともあり、経験させていただく疾患・症例の幅が広島市内の病院よりも広い印象を受けています。まだまだ知識も経験も浅く、先輩方にはご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、この地での勤務を貴重な経験と捉え研鑽に励みたいと考えています。地域の先生におかれましては、ご指導ご鞭撻をいただければ幸いに思います。今後ともよろしくお願いいたします。

## 会 員 紹 介



市立三次中央病院 外科

こんどう よしふみ  
近藤 賢史

皆様、初めまして。今年度より市立中央病院外科の近藤 賢史（よしふみ）と申します。2017年に広島大学を卒業しまして、2年間、大竹市の広島西医療センターで研修させていただきました。将来は地域医療に従事したいと考えており、備北地区という素晴らしい環境で外科医生活をスタートでき、大変うれしく思っています。赴任して1カ月が経過しましたが、外科の先生方は優しく、熱くご指導くださり、また他の病院スタッフの暖かさに毎日感謝しております。三次の街はというと、まだあまり散策できてなくこれから探っていきたいと思います。趣味は音楽、自動車、映画、野球などです。モータースポーツをしていましたが数年間やっていません。安芸高田市のサーキットが近いのでまた車欲が湧いております。音楽の方はハードロックが好きで、バンドでギターをやっておりました。こちらにも継続したく思いますが、ぜひメンバー募集があればお声かけいただければ幸いです。まだまだ不慣れ、未熟な点ばかりでご迷惑をおかけしますが、一步一步着実に成長していきますので、ご指導ご鞭撻の程よろしく願いいたします。



市立三次中央病院 整形外科

よしおか こうき  
吉岡 紘輝

本年4月より市立三次中央病院整形外科で勤務させて頂いている吉岡紘輝と申します。

平成27年に徳島大学を卒業し、神戸市立医療センター西市民病院での2年間の初期臨床研究を終え平成29年に広島大学整形外科へ入局いたしました。平成31年3月までは県立広島病院で勤務し、三次への赴任となりました。

骨折や変性疾患の治療はもちろん予防や日常生活指導などについても啓発を行って参りますので、宜しく願い致します。

## 会 員 紹 介



市立三次中央病院 整形外科  
こうづま ようすけ  
上妻 陽介

平成31年4月から市立三次中央病院に整形外科医として赴任してまいりました上妻陽介と申します。

地元は熊本で、大学は広島大学を卒業しました。学生時代はサッカーをしていました。広島に来てからは周りに影響されてカープファンとなりました。

こちらに来る前は初期研修の2年間で三原の興生総合病院で過ごしました。研修医を終えて、整形外科として初めて働かせていただく場所がこの三次中央病院となります。整形外科医としても医者としても、まだまだ未熟な点が多く、ご迷惑をおかけすることが多々あるとは思いますが、誠心誠意患者に向き合って日々の診療を頑張っていきたいと思えます。

新専門医制度の兼ね合いでこちらには1～2年と短い期間での赴任となるかとは思いますが、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



市立三次中央病院 産婦人科  
はりもと しな  
張本 姿

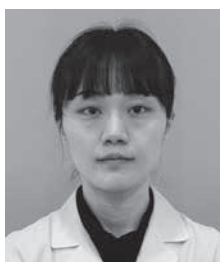
2019年4月より市立三次中央病院の産婦人科に赴任しました、張本 姿と申します。昨年までは初期研修医として広島市内で研修をしていました。専攻医としてのスタートを三次で始められたこと、とても嬉しく思います。子供の頃から広島市内で育ち、昨年までずっと広島市内で生活していたため、初めての土地に最初は不安もありましたが、優しい上級医の先生方やたくさんの同期、親身になってくれるコメディカルの方々に支えられ、現在非常に充実した日々を送ることができています。

当院は県北の周産期を担っており、様々な土地から妊婦さんが受診されます。若い人、年齢が高めな人、リスクの何もない人、ハイリスクの人など様々な症例を経験させていただき、広島市内への長距離搬送など、地方病院ならではの経験もあり、毎日良い勉強をさせていただいています。

まだ地名が分からないことも多く、三次探索もあまりできていませんが、これから一つずつ学び、三次に馴染んで行きたいと思えますのでどうぞよろしくお願いいたします。



## 会 員 紹 介



市立三次中央病院 皮膚科

の も と か よ こ  
野本佳葉子

初めまして。平成31年4月より三次中央病院に赴任しました、野本佳葉子と申します。

平成23年に宮崎大学を卒業後、地元である広島に戻り、広島大学病院にて初期研修を行いました。初期研修終了後は広島大学皮膚科に入局し、広島大学病院で1年間、JA広島総合病院で約2年間、再度広島大学病院で約1年間、その後JA尾道総合病院で約2年間勤務してまいりました。

三次には、ワイナリーや君田温泉に何度か遊びに来たことがありますが、冬場に来たことはありません。三次の冬はとても寒く、雪がたくさん積もることもあると聞いており、寒さにめっきり弱い私は、今からとても不安に思っています。

三次中央病院の常勤医がいる科の中で、1人体制である科は皮膚科のみだったようですが、今年から2人体制となりました。部長である平島先生を微力ながらサポートさせていただきながら、自身の研鑽にも励んでいけたらと思います。また、これまでの経験を活かして、少しでも皆様のお力になれるよう頑張りますので、何卒よろしくお願いいたします。



市立三次中央病院 泌尿器科

む か い さくらこ  
向井 桜子

平成31年4月1日より市立三次中央病院泌尿器科に勤務させていただいております向井桜子と申します。平成28年に福岡大学を卒業し、初期研修を広島赤十字・原爆病院にて行い、昨年は広島大学病院で勤務して、この4月より三次へ赴任して参りました。市立三次中央病院泌尿器科は昨年度まで2人体制でありましたが、今年度より3人体制と増員となり、経験豊富で優しい先輩の先生方・頼もしいスタッフの方々と働くことが出来、日々勉強になることばかりで大変貴重な経験を多くさせていただいております。泌尿器科には女性医師は大変少なく、患者さんとりわけ女性の患者さんには受診しづらい科ではあると思います。しかし、泌尿器科に女性医師がいると知っていただくことで患者さん皆さんが通いやすい環境が作れたらと思っています。初めての場所で不慣れな点も多く、ご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、どうぞ宜しくお願い致します。

## 会 員 紹 介



市立三次中央病院 耳鼻咽喉科  
はっとり たかよし  
服部 貴好

2019年4月1日より市立三次中央病院耳鼻咽喉科に赴任致しました、服部貴好と申します。広島大学を卒業後、初期臨床研修を中国労災病院にて2年間行い、広島大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科に入局しました。1年間大学病院で勤務し、この春より三次中央病院に参りました。

まだまだ若輩者ではございますが、少しでも皆様のお力になれるよう尽力致しますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



市立三次中央病院 眼科  
つむら りょう  
津村 諒

本年度より三次中央病院眼科に赴任となりました。津村諒と申します。

平成28年度金沢医科大学を卒業し、広島大学病院で2年間初期研修を行い、研修終了後に広島大学病院眼科に入局。そして昨年度までは広島大学病院で後期研修を行いました。

大学は、北陸の大学であり、少しの間広島から離れて生活をしていましたが、私自身、尾道で生まれ中学校、高校は修道で学び生粋の広島人と自負しております。

備北は、これまで住んだことのない地域ですが、引っ越し後こちらの生活にもだいぶ慣れ楽しく毎日を送っております。

今後の目標としては、大学での研修では比較珍しい疾患の患者様が多かったですが、こちらではcommon disease を多く経験し、今後の診療のための糧にしたいと考えております。

まだ未熟のためご迷惑をお掛けするとは思いますが、備北地域の眼科医療のために微力ながら頑張ります。どうかご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願い致します。

## 会 員 紹 介



市立三次中央病院 放射線診断科

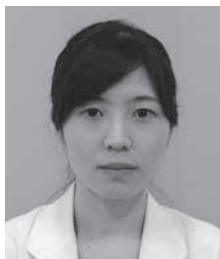
おかだ こうへい  
岡田 康平

はじめまして。平成31年4月より市立三次中央病院へ赴任となりました、放射線科の岡田康平と申します。平成29年に広島大学を卒業し、その後2年間広島大学で初期臨床研修を行っておりました。

今年度より放射線科専攻医となりましたが、三次中央病院では読影業務だけではなく、救急外来にも携わらせていただいております。急患対応にはかなり右往左往しておりますが、放射線科医としては非常に稀有な修練の場をいただいているとも感じています。実際に臨床の場に足を踏み入れ学ぶことは、読影をする上でも必ず力になると考え励んでいる次第です。

学生時代から慣れ親しんだ広島市を離れ三次市へ異動となり、不安な思いもありましたが、素晴らしい先輩、同期の先生方に恵まれ、想像していた以上に充実した専攻医生活を送ることができております。

まだまだ未熟者ではございますが、臨床医の先生方、患者様のお力になれるよう日々研鑽して参りますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



市立三次中央病院 麻酔科

ささべ しょうこ  
笹部 祥子

4月から三次中央病院麻酔科へ赴任しました笹部祥子と申します。広島大学を卒業後、広島市立安佐市民病院で初期研修を行い、昨年度は広島大学病院麻酔科で働いていました。三次は初めての地で慣れないことが多いですが、病院スタッフの方々の優しさに日々救われています。ご迷惑をお掛けすることがあるかと思いますが、宜しくお願い致します。

## 会 員 紹 介



三次地区医師会介護老人保健施設 あさぎり

やまぐち たくろう  
山口 拓朗

平成30年9月に三次地区医師会介護老人保健施設あさぎりへ赴任致しました。

平成21年に広島大学医学部を卒業後、広島総合病院、呉共済病院を経て現在は広島大学大学院医系科学研究科博士課程に在籍中です。専門は消化器外科です。

介護老人保健施設における診療は、これまでの手術に追われる外科医生活とは随分異なり、専門領域にとらわれない幅広い知識が必要となります。加えて、病院と比べると非常に医療資源が限られており、急変が起こった場合には施設内で完結できず周囲の医療機関に頼らざるを得ない状況です。赴任して早8ヶ月が経過しましたが、慣れないことも多く、まだまだ学ぶべきことが多いと日々痛感しています。時としてoverdiagnosisとなり、医師会の先生方にはご迷惑をおかけするかもしれませんが、何卒ご理解のほどよろしく願いいたします。また、入所・通所を含めご利用を検討される患者様がいらっしゃいましたら、迅速に対応させて頂きたいと思いますので、是非ご紹介をよろしくお願いいたします。

## 医 師 紹 介



市立三次中央病院 歯科口腔外科

つしま こうじ  
津島 康司

平成31年4月1日から三次中央病院へ赴任となりました津島 康司と申します。平成24年に大阪歯科大学を卒業し、研修医は実家である広島に帰り広島大学病院で行いました。その後、大学病院の顎・口腔外科へ入局しました。口腔外科医として6年勤務し、この春から三次へ赴任となりました。5年前にも三次は仕事で何度か訪れてはいましたが、仕事以外は高速バスでの行き帰りのみであったので、いざ生活すると何もわかりませんでした。5年前に食べた三次駅前のインドカレー屋さんがまだ残っていたことに少し感動しました。三次に引っ越して1ヶ月経過しましたが、とても住みやすい町だなと感じております。

三次ではこれまでの経験を生かして皆様の力になればと思います。今後ともよろしくお願い致します。



## 会 員 異 動

### (入 会)

|                | 異動元                  | 異動日            |
|----------------|----------------------|----------------|
| 三 次 病 院        | 渡 邊 尚 子 (諫早市医師会)     | 平成31年 4 月 1 日) |
| 三次市国民健康保険君田診療所 | 黒 川 純 一 (広島市医師会)     | 平成31年 4 月 1 日) |
| 市立三次中央病院       | 笹 部 祥 子 (広島大学病院)     | 平成31年 4 月 1 日) |
| 市立三次中央病院       | 服 部 貴 好 (広島大学病院)     | 平成31年 4 月 1 日) |
| 市立三次中央病院       | 上 妻 陽 介 (興生総合病院)     | 平成31年 4 月 1 日) |
| 市立三次中央病院       | 益 田 和 彦 (広島大学病院)     | 平成31年 4 月 1 日) |
| 市立三次中央病院       | 向 井 桜 子 (広島大学病院)     | 平成31年 4 月 1 日) |
| 市立三次中央病院       | 張 本 姿 (広島大学病院)       | 平成31年 4 月 1 日) |
| 市立三次中央病院       | 姫 野 菜津美 (安佐市民病院)     | 平成31年 4 月 1 日) |
| 市立三次中央病院       | 野 本 佳葉子 (JA尾道総合病院)   | 平成31年 4 月 1 日) |
| 市立三次中央病院       | 出 雲 大 幹 (舟入市民病院)     | 平成31年 4 月 1 日) |
| 市立三次中央病院       | 近 藤 賢 史 (広島西医療センター)  | 平成31年 4 月 1 日) |
| 市立三次中央病院       | 安 達 悠 歩 (広島赤十字・原爆病院) | 平成31年 4 月 1 日) |
| 市立三次中央病院       | 吉 岡 紘 輝 (県立広島病院)     | 平成31年 4 月 1 日) |
| 市立三次中央病院       | 広 川 達 也 (広島大学病院)     | 平成31年 4 月 1 日) |
| 市立三次中央病院       | 児 玉 竜 一 (JA広島総合病院)   | 平成31年 4 月 1 日) |
| 市立三次中央病院       | 山 岡 尚 平 (県立広島病院)     | 平成31年 4 月 1 日) |
| 市立三次中央病院       | 岡 田 康 平 (広島大学病院)     | 平成31年 4 月 1 日) |
| 市立三次中央病院       | 松 原 直 矢 (県立広島病院)     | 平成31年 4 月 1 日) |
| 市立三次中央病院       | 弓 場 義 雄 (呉共済病院)      | 平成31年 4 月 1 日) |
| 市立三次中央病院       | 江 草 弘 基 (広島大学病院)     | 平成31年 4 月 1 日) |
| 自 宅 会 員        | 妹 尾 慧 (広島大学病院)       | 平成31年 4 月 1 日) |

### (退 会)

|          | 異動先                  | 異動日           |
|----------|----------------------|---------------|
| 市立三次中央病院 | 趙 成 大 (中電病院)         | 平成31年 3 月31日) |
| 市立三次中央病院 | 小 畠 浩 史 (安佐市民病院)     | 平成31年 3 月31日) |
| 市立三次中央病院 | 中 増 昭 久 (水入医院)       | 平成31年 3 月31日) |
| 市立三次中央病院 | 原 大 輔 (原田病院)         | 平成31年 3 月31日) |
| 市立三次中央病院 | 森 本 啓 介 (広島大学病院)     | 平成31年 3 月31日) |
| 市立三次中央病院 | 大 江 健 (おおえクリニック(開業)) | 平成31年 3 月31日) |
| 市立三次中央病院 | 岡 田 晃 (東広島医療センター)    | 平成31年 3 月31日) |
| 市立三次中央病院 | 檜 本 和 樹 (中国中央病院)     | 平成31年 3 月31日) |
| 市立三次中央病院 | 原 田 拓 光 (JA広島総合病院)   | 平成31年 3 月31日) |
| 市立三次中央病院 | 住 井 淳 一 (広島大学病院)     | 平成31年 3 月31日) |
| 市立三次中央病院 | 猫 本 明 紀 (広島大学病院)     | 平成31年 3 月31日) |

## 会 員 異 動

### (退 会)

市立三次中央病院  
市立三次中央病院  
市立三次中央病院  
市立三次中央病院  
市立三次中央病院  
市立三次中央病院  
市立三次中央病院  
ビハーラ花の里病院  
三 次 病 院  
荒 瀬 外 科  
三次市国民健康保険君田診療所

### 異動先

岡 島 枝里子 (広島市こども療育センター)  
白 石 泰 尚 (広島赤十字・原爆病院)  
江 藤 昌 平 (広島大学病院)  
岡 本 啓 (岡本産婦人科医院)  
石 橋 優 和 (JA広島総合病院)  
永 島 健 太 (福山市民病院)  
宮 田 真弓子 (安佐市民病院)  
木 村 直 大 (広島大学病院)  
田 辺 彰 (退職)  
井 上 尚 彦 (退会)  
荒 瀬 秀 賢 (死亡)  
荒 瀬 秀 治 (死亡)

### 異動日

平成31年3月31日)  
平成31年3月31日)  
平成31年3月31日)  
平成31年3月31日)  
平成31年3月31日)  
平成31年3月31日)  
平成31年3月31日)  
平成31年3月31日)  
平成31年3月31日)  
平成31年3月31日)  
平成31年1月11日)  
平成31年2月6日)

### (異 動)

市立三次中央病院  
市立三次中央病院  
介護老人保健施設あさざり

### 異動先

永 澤 昌 (地区A会員)  
中 西 敏 夫 (地区B会員)  
加美川 弘 之 (加美川クリニック)

### 異動日

平成31年4月1日)  
平成31年4月1日)  
平成31年4月1日)



## Better Health, Brighter Future

タケダから、世界中の人々へ。より健やかで輝かしい明日を。

武田薬品工業株式会社  
www.takeda.com/jp



協和キリン株式会社

**KYOWA KIRIN**

私たちの志  検索

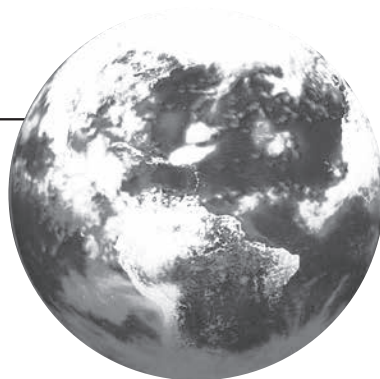
2019年7月作成



**佐々木印刷株式会社**

とんがったマルで未来を見つめる  
情報/文化/創造

地球環境と人にやさしい印刷に  
取り組んでいます



TEL **0824-62-3539** FAX **0824-63-2829**  
広島県三次市東酒屋町306-55 〒728-0023 URL <http://www.sskp.co.jp>

## 医師会事業所現況報告

| 医療センター入院実績（病床数150床） |       |       |       |       |        |         | (H30.12～H31. 3) |
|---------------------|-------|-------|-------|-------|--------|---------|-----------------|
| 項 目                 | 12月   | 1月    | 2月    | 3月    | 合計     | 平均      | 備 考             |
| 新 入 院 患 者           | 72    | 59    | 56    | 68    | 255    | 63.8    |                 |
| 内（救急入院）             | 6     | 4     | 3     | 1     | 14     | 3.5     |                 |
| 退 院 患 者             | 70    | 68    | 58    | 70    | 266    | 66.5    |                 |
| 月 末 在 院 患 者         | 120   | 111   | 109   | 107   | 447    | 111.8   |                 |
| 在 院 患 者 延 数         | 3,667 | 3,625 | 3,025 | 3,397 | 13,714 | 3,428.5 |                 |
| 平 均 入 院 患 者 数       | 118.3 | 116.9 | 108.0 | 109.6 | 453    | 113.2   |                 |
| 協 同 指 導 回 数         | 9     | 6     | 0     | 5     | 20     | 5.0     |                 |
| 実 働 病 床 利 用 率       | 78.9  | 78.0  | 72.0  | 73.1  | —      | 75.5    |                 |
| 検 査 外 来 患 者 数       | 934   | 975   | 879   | 871   | 3,659  | 914.8   |                 |
| そ の 他（ドック）          | 256   | 277   | 279   | 246   | 1,058  | 264.5   |                 |
| 三次市休日夜間急患センター外来実績   |       |       |       |       |        |         | (H30.12～H31. 3) |
| 市 町                 | 12月   | 1月    | 2月    | 3月    | 合計     | 平均      | 備 考             |
| 旧 三 次 市             | 180   | 349   | 182   | 113   | 824    | 206.0   |                 |
| 吉 舎 町               | 11    | 17    | 14    | 8     | 50     | 12.5    |                 |
| 三 和 町               | 5     | 10    | 5     | 5     | 25     | 6.3     |                 |
| 三 良 坂 町             | 8     | 22    | 20    | 10    | 60     | 15.0    |                 |
| 君 田 町               | 10    | 18    | 9     | 7     | 44     | 11.0    |                 |
| 布 野 町               | 11    | 11    | 1     | 2     | 25     | 6.3     |                 |
| 作 木 町               | 4     | 11    | 3     | 1     | 19     | 4.8     |                 |
| 甲 奴 町               | 2     | 2     | 3     | 3     | 10     | 2.5     |                 |
| そ の 他               | 45    | 79    | 21    | 14    | 159    | 39.8    |                 |
| 合 計                 | 276   | 519   | 258   | 163   | 1,216  | 304.0   |                 |



# 医師会日誌

平成30年12月1日～平成31年3月31日

- |        |                                                  |       |                                                                                                 |
|--------|--------------------------------------------------|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12 .4  | ・備北メディカルネットワーク<br>臨床病理検討会（CPC）<br>（庄原赤十字病院）      | 1 .29 | ・急患センター WG<br>（医師会多目的室）                                                                         |
|        | ・広島県医師会理事会<br>鳴戸謙嗣会長出席<br>（広島モノリス）               | 2 .3  | ・運営委員会 （医師会多目的室）<br>・平成30年度圏域地对協研修会<br>（くれ絆ホール）                                                 |
| 12 .5  | ・第9回禁煙外来担当医の会<br>（医療センター）                        | 2 .5  | ・広島県医師会 理事会<br>鳴戸謙嗣会長出席<br>（広島県医師会館）                                                            |
| 12 .6  | ・備北メディカルネットワーク<br>臨時総会 （医師会多目的室）                 | 2 .7  | ・故 荒瀬秀治先生 ご葬儀<br>（2月6日ご逝去 享年71歳）<br>（JA虹のホール三次）                                                 |
|        | ・三次地区医師会 忘年会<br>（グランラセーレ三次）                      | 2 .12 | 執行部会 （医師会多目的室）                                                                                  |
| 12 .11 | ・執行部会 （医師会多目的室）                                  | 2 .14 | ・広島県医師会・<br>広島県警連絡協議会 総会<br>大谷道倫先生、佐々木智先生出席<br>（ホテルグランヴィア広島）                                    |
|        | ・市郡地区医師会予防接種担当理事<br>及び市町担当者連絡協議会<br>（広島県医師会館）    |       |                                                                                                 |
| 12 .20 | ・地域医療構想調整会議<br>有床診療部会 （広島県三次庁舎）                  | 2 .15 | ・広島県医師会第2回会費改定検討<br>委員会 （広島県医師会館）                                                               |
|        | ・三次市休日夜間急患センター<br>運営協議会 （広島県三次庁舎）                | 2 .16 | ・三次市教育振興会50周年記念講演会<br>（講師 広島大学学長 越智光夫先生）<br>鳴戸謙嗣会長、<br>大倉美知男副会長出席<br>（三次市民ホールきりり、<br>グランラセーレ三次） |
| 1 .8   | ・広島県医師会 理事会<br>鳴戸謙嗣会長出席<br>（広島県医師会館）             |       |                                                                                                 |
| 1 .14  | ・故 荒瀬秀賢先生 ご葬儀<br>（1月11日ご逝去 享年73歳）<br>（JA虹のホール酒屋） | 2 .19 | ・広島県医師会理事会・医師会長会議<br>鳴戸謙嗣会長出席<br>（広島県医師会館）                                                      |
| 1 .16  | ・執行部会／合同役員会 （森新）                                 |       |                                                                                                 |
| 1 .24  | ・広島県備北保険医療福祉推進協議会<br>（いきいきネット）<br>（医師会多目的室）      | 2 .20 | ・広島県医師会有床診療所部会<br>大倉美知男副会長出席<br>（広島県医師会館）                                                       |
|        | ・多職種連携会議<br>（三次市福祉保健センター）                        | 2 .21 | ・地对協 たばこ対策関係者研修会<br>（広島県三次庁舎）                                                                   |
| 1 .27  | ・中四国医師会有床診療研修会<br>大倉美知男副会長出席<br>（ホテルグランヴィア岡山）    | 2 .22 | ・在宅介護医療連携研修会<br>（ペペらホール）                                                                        |
|        |                                                  | 2 .23 | ・多職種連携研修会<br>（ペペらホール）                                                                           |

- |       |                                                                      |             |       |                   |           |
|-------|----------------------------------------------------------------------|-------------|-------|-------------------|-----------|
| 2 .26 | ・執行部会                                                                | (医師会多目的室)   | 3 .28 | ・広島県備北保健医療福祉推進協議会 | (いきいきネット) |
| 2 .28 | ・広島県備北保健医療福祉推進協議会                                                    | (いきいきネット)   |       |                   | (医師会多目的室) |
|       |                                                                      | (医師会多目的室)   |       |                   |           |
|       | ・市郡地区医師会感染症担当理事連絡協議会                                                 | 重信和也理事出席    |       |                   |           |
|       |                                                                      | (広島県医師会館)   |       |                   |           |
| 3 .1  | ・広島県地対協定例理事会                                                         | (広島県医師会館)   |       |                   |           |
| 3 .5  | ・広島県医師会理事会                                                           | 鳴戸謙嗣会長出席    |       |                   |           |
|       |                                                                      | (広島県医師会館)   |       |                   |           |
| 3 .7  | ・産業医研修会                                                              | (医師会多目的室)   |       |                   |           |
|       | ・産業保健センター運営協議会                                                       | (医師会多目的室)   |       |                   |           |
| 3 .8  | ・第69回広島医学会北部支部大会及び三次地区医師会・庄原市医師会・安芸高田市医師会・市立三次中央病院・庄原赤十字病院 合同カンファレンス | (グランラセーレ三次) |       |                   |           |
| 3 .10 | ・広島県医師会臨時代議員会                                                        | (広島県医師会館)   |       |                   |           |
| 3 .12 | ・執行部会                                                                | (医師会多目的室)   |       |                   |           |
| 3 .14 | ・地対協理事会                                                              | (広島県三次庁舎)   |       |                   |           |
| 3 .19 | ・広島県医療審議会保健医療計画部会                                                    | 鳴戸謙嗣会長出席    |       |                   |           |
|       |                                                                      | (代理中西敏夫理事)  |       |                   |           |
|       |                                                                      | (広島県庁)      |       |                   |           |
| 3 .20 | ・理事会                                                                 |             |       |                   |           |
|       | ・三次市から予防接種に関する報告                                                     |             |       |                   |           |
|       | ・平成31年度三次地区医師会事業所予算(案)について 他                                         | (医師会多目的室)   |       |                   |           |
| 3 .26 | ・執行部会                                                                | (医師会多目的室)   |       |                   |           |

## 原稿募集

下記要領により公募しますので、ご投稿をお待ちします。原稿締切り日はありません。

### 記

「私の主張」「私の趣味」

2,000字程度。匿名不可。

「文芸・芸術作品」

随筆、短歌、俳句、絵画、書、写真など。  
400字程度(本号1頁掲載範囲)

### 採否

他人の誹謗中傷や、内容が編集方針にそぐわない場合、巴杏編集委員会で審査の上、返却することもあります。

※ファックス伝言板にも奮って投稿願います。

## 編 集 後 記

巴杏166号をお届けします。令和元年初の巴杏となります。今回は特別寄稿として、市立三次中央病院新病院長、永澤昌先生にご寄稿いただきました。三次で出来ることは三次で、「いろいろな人が三次に寄ってくる三次」という目標を、新市長さんも含め、三次の皆で目指していけたら、と思います。私も微力ながら予防医療の方面でその目標に寄与できれば、と願っております。

ご多忙の中、寄稿して下さった諸先生方に感謝申し上げます。今年もおそろく猛暑となるのでしょうか、お体にお気をつけください。

令和元年6月12日 加美川 誠



### (編集委員)

|       |       |
|-------|-------|
| 栗本 清伸 | 安藤 仁  |
| 加美川 誠 | 須澤 利文 |
| 箕岡 康明 | 松尾洋一郎 |
| 久行 敦士 | 高場 敦久 |
| 立本 直邦 |       |

発 行／一般社団法人 三次地区医師会

発行日／令 和 元 年 6 月

印 刷／佐々木印刷株式会社



## 世界糖尿病デー・ブルーライトアップ

平成最後の世界糖尿病デー・ブルーライトアップは平成30年11月9日（金）から11月18日（日）までの10日間に渡り日没から22時まで、広島三次ワイナリーにて実施されました。これはワイナリーのカリヨンタワー（組み鐘塔）をブルーにライトアップし、広島三次ワイナリー案内掲示板の上方に世界糖尿病デーの垂れ幕を設置したものです。カリヨンとは複数の鐘を組み合わせ、旋律を演奏できるようにしたもので、広島三次ワイナリーのシンボリック的存在となっています。

今回のブルーライトアップイベントは三次地区医師会と三次市が行っている糖尿病の啓蒙活動を三次市民はもちろんのこと、外部からの観光客の皆さんにもアピールでき大変に意義深いものになったと考えています。

こね森内科医院 小根 森 元

